

教本普第六十二號

海軍兵須知提要

海軍省教育局

教本普第六十二號

海軍兵須知提要

海軍省教育局



海
軍
兵
須
知
提
要

海軍兵須知提要要旨

- 一、本書ハ海軍諸法規其ノ他ニ據リ海軍兵日常ノ須知事項ヲ蒐集編纂セルモノナリ
- 二、海軍兵ニ海軍法規ヲ教授スル場合ニハ本書ヲ參考トシ各兵種階級ニ從ヒ其ノ勤務ニ適應スル如ク取捨選擇スルヲ要ス
- 三、本書所載ノ事項ハ諸法規ノ改正等ニ伴ヒ隨時修補ヲ要スルモノアルヲ以テ此ノ點ニ關シ常ニ留意スルヲ要ス

昭和十五年四月

海軍省教育局

HP「海軍砲術学校」公開史料

昭 和 六 年 三 月 改 正	昭 和 五 年 八 月 改 正	昭 和 四 年 七 月 改 正	昭 和 三 年 二 月 改 正	昭 和 二 年 九 月 改 正	昭 和 二 年 五 月 改 正	大 正 十 五 年 九 月 改 正	大 正 十 四 年 九 月 改 正	大 正 十 四 年 二 月 改 正	大 正 十 三 年 七 月 改 正	大 正 十 三 年 三 月 改 正	大 正 十 二 年 九 月 改 正	大 正 十 二 年 一 月 改 正	大 正 九 年 十 一 月 發 布
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---

沿 革

昭 和 十 五 年 四 月 改 正	昭 和 十 四 年 四 月 改 正	昭 和 十 三 年 三 月 改 正	昭 和 十 三 年 二 月 改 正	昭 和 十 二 年 四 月 訂 正	昭 和 十 二 年 四 月 訂 正	昭 和 十 一 年 一 月 訂 正	昭 和 十 一 年 三 月 訂 正	昭 和 十 一 年 十 一 月 訂 正	昭 和 十 一 年 十 一 月 訂 正	昭 和 十 一 年 十 一 月 訂 正	昭 和 十 一 年 十 一 月 訂 正	昭 和 十 一 年 十 一 月 訂 正	昭 和 十 一 年 十 一 月 訂 正
---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

HP「海軍砲術学校」公開史料

教育ニ關スル	勅語	(明治二十三年十月三十日)	一頁
陸海軍人へ賜へル	勅諭	(明治十五年一月四日)	三
陸海軍人へ賜へル	勅諭	(大正元年七月三十一日)	一六
陸海軍人へ賜へル	勅諭	(昭和元年十二月二十八日)	一九
戊申詔書	(明治四十一年十月十三日)	二〇	
國民精神ノ振作更張ニ關スル詔書	(大正十二年十一月十日)	二二	
軍人心得		二五	

海軍兵須知提要 目次

第一章	軍艦	一
第二章	軍港、要港	三
第一節	軍港所在地	三
第二節	要港所在地	四
第三章	軍機保護法	五
第四章	海軍軍人ノ階級	〇
第一節	海軍武官官階	〇
第二節	海軍兵職階	〇
第三節	各兵種ノ性能	〇
第五章	海軍服制	一

目次

HP「海軍砲術学校」公開史料

目次

第一節	服制摘要	二
第二節	服装令及同施行細則摘要	六
第六章	海軍禮式令 <small>レイシキレイ</small>	七
第一節	各個ノ敬禮 <small>カクゴ ケイレイ</small>	七
第一目	室内ノ敬禮 <small>シナイ</small>	七
第二目	室外ノ敬禮 <small>シツグワイ</small>	七
第二節	艦船ノ敬禮 <small>カンセン</small>	七
第一目	軍艦ノ敬禮 <small>グンカン</small>	七
第二目	短艇ノ敬禮 <small>タンテイ</small>	七
第三節	軍隊ノ敬禮 <small>グンタイ</small>	七
第四節	衛兵及番兵ノ敬禮 <small>エイヘイバンペイ</small>	七
第七章	上陸外出ニ關スル規程 <small>ジヤウリクダウイシユツクワン</small>	七

HP「海軍砲術学校」公開史料

第一節	上陸外出規則摘要	壹
第二節	依願歸省手續	貳
第三節	旅行及上陸外出中ノ心得	参
第八章	海軍刑法	四
第九章	海軍懲罰令	五
第十章	海軍現役軍人婚姻取扱規則	六
第十一章	海軍禮砲令	七
第十二章	海軍旗章令	八
第十三章	海軍下士官兵ノ服役ニ關スル規程	九
第十四章	海軍武官兵任用進級諸令規則	十
第一節	海軍兵進級規則拔萃	一
第二節	海軍武官進級令及任用令拔萃	二

HP「海軍砲術学校」公開史料

目次

第三節	海軍准士官、下士官兵任用進級試験規則拔萃	七
第十五章	海軍下士官兵善行章令施行細則	七
第十六章	勳章、記章及戰技優等章並優等徽章	三
第一節	勳章	三
第二節	從軍記章	六
第三節	優等章及優等徽章	六
第十七章	海軍諸學校及練習生ニ關スル規則	九
第十八章	職員	二
第一節	艦隊、鎮守府及要港部職員	二
第二節	艦船ノ職員	三
第三節	海兵團、防備隊、航空隊、驅逐隊等ノ職員	三
第十九章	海軍豫備員、豫備生徒、豫備練習生及豫備補習生	三

HP「海軍砲術学校」公開史料

第一節	海軍豫備員	一三三
第二節	海軍豫備生徒	一三五
第三節	海軍豫備練習生	一三五
第四節	海軍豫備補習生	一三六
第二十章	雜件	一三三
一	鎮守府緊急呼集	一三三
二	短艇敷物識別	一三三
三	艦隊、驅逐隊、水雷隊、潜水隊、掃海隊	一三三
四	檢閱	一三三
五	演習	一三三
六	觀艦式	一三四

(終)

勅チヨク

語ゴ

(明治天皇

明治二十三年十月三十日國民一般ニ)
教育ノ方針ヲ諭サンガ爲下シ給フ

朕チシホ惟カフニ我ワカ皇クワウ祖ソクワウ皇ソククニ宗ハジ國クニヲ肇ハジムルコト宏クワウ遠エンニ德トクヲ樹ガツル
 コト深シン厚コウナリ我ワカ臣シン民ミン克キク忠チュウニ克キク孝カウニ億オク兆テウ心ココロヲ一イツニシテ世ヨ
 ヲヨ々ソ厥ノ美ビヲ濟ナセルハ此コレ我ワカ國コク體ダイノ精セイ華クワニシテ教ケウ育イクノ淵エン源ゲン亦マ
 實ジツニ此ココニ存ソンス爾ナン臣チ民シン父ミン母フニ孝カウニ兄ケイ弟テイニ友イウニ夫フ婦フ相アイ和ワシ朋ホウ友イウ
 相アイ信シンシ恭キヨウ儉ケン己コノレヲ持チシ博ハク愛アイ衆シュウニ及オヨホシ學ガクヲ修オウメ業ゲツヲ習ナラヒ以モツ
 テ智チ能ノウヲ啓ケイ發ハツシ德トク器キヲ成ジ就ジュウシ進スミテ公コウ益エキヲ廣ヒロメ世セイ務ムヲ開ヒラキ常ツネ
 ニ國コク憲ケンヲ重オモシシ國コク法ハフニ遵シタガヒ一旦イツ緩ダン急クワンアレハ義ギ勇ユウ公コウニ奉ホウシ以モツテ

勅語

一

天テン壤ジヤウ無ム窮キウノ皇クワウ運ウンヲ扶フ翼ヨクスヘシ是カクノ如ゴトキハ獨ヒトリ朕ゼン力チユウ忠リヤウ良ノ
 臣シン民ミンタルノミナラス又マタ以モツテ爾ナン祖ヂン先センノ遺キ風フウヲ顯ケン彰シヤウスルニ足ダラン
 斯コノ道ミチハ實ジツニ我ワ力クワウ皇クワウ祖クワウ皇クワウ宗ソウノ遺キ訓クンニシテ子シ孫ソン臣シン民ミンノ俱トモニ遵ジュン
 守シユスヘキ所トコロ之コレヲ古コ今コンニ通ツウシテ謬アヤラマス之コレヲ中チュウ外ウケニ施ホドシテ悖モト
 ラス朕チン爾ナン臣ギン民ミント俱トモニ拳ケン々ケン服フク膺ヨウシテ威ミナソノ其トク德ヲ一イチニセンコトヲ
 庶コヒ幾ネガフ

勅ちよく

諭ゆ

(明治天皇

明治十五年一月四日
陸海軍人へ賜フ)

我國わがくにの軍隊ぐんたいは世世よよ天皇てんわうの統率とうそつし給ふ所ところにそある昔ひかし神武天皇じんむてんわう躬みつから大伴物部おほともものべの兵つはものともを率ひきる中國ちかつくにのまつろはぬものともを討うち平たひらけ給たまひ高御座たかみくらに即つかせられて天下あめのしたしろしめし給たまひしより二千五百有餘年いさよねんを経へぬ此間世このあひだよの様さまの移うつり換かはるに隨したがひて兵へい制せいの沿革えんかくも亦また屢しばしばなりき古いにしへは天皇てんわう躬みつから軍隊ぐんたいを率ひきる給たまふ御制おんおきてにて時ときありては皇后くわうご皇太子こうたいしの代からせ給たまふこともありつれと大凡おほよそ兵權へいけんを臣下しんかに委ゆたね給たまふことはなかりき中世ちかづよに至いたりて文ぶん

勅諭

三

武^ぶの制度^{せいど}皆^{みな}唐^{たう}國^{こく}風^{ふう}に倣^{なら}はせ給^{たま}ひ六^{ろく}衛^{ゑい}府^ふを置^おき左^{さう}右^う馬^め寮^{りやう}を建^たて
 防^{さきもり}人^{ひと}なと設^{せつ}けられしかは兵^{へい}制^{せい}は整^{ととの}ひたれとも打^{うちつ}續^じける昇^{しやう}平^{へい}に
 狂^まれて朝^{てう}廷^{てい}の政^{せい}務^むも漸^{やうやく}文^{ぶん}弱^{じやく}に流^{なが}れけれは兵^{へい}農^{のう}おのつから二
 に分^{わか}れ古^{いにしへ}の徴^{ちやう}兵^{へい}はいつとなく壯^{さう}兵^{へい}の姿^{すがた}に變^{かは}り遂^{つひ}に武^ぶ士^しとな
 り兵^{へい}馬^ばの權^{けん}は一向^{ひたすら}に其^{その}武^ぶ士^しとも^{もの}の棟^{とうりやう}梁^{りやう}たる者^{もの}に歸^きし世^よの亂^{みだれ}と
 共^{とも}に政^{せい}治^ちの大^{たい}權^{けん}も亦^{また}其^{その}手^てに落^おち凡^{およそ}七^{しち}百^{ひゃく}年^{ねん}の間^{あいだ}武^ぶ家^けの政^{せい}治^ちとは
 なりぬ世^よの様^{さま}の移^{うつ}り換^かりて斯^{かく}なれるは人^{ひと}力^{ちから}もて挽^{ひきか}回^へすへき
 にあらずとはいひひなから且^{かつ}は我^{わが}國^{こく}體^{たい}に戻^{もど}り且^{かつ}は我^{わが}祖^そ宗^{そう}の御^{おん}制^{せい}
 に背^{そむ}き奉^{たてまつ}り淺^{あそま}間^ましき次^し第^{だい}なりき降^{くだ}りて弘^{こう}化^わ嘉^か永^{えい}の頃^{ころ}より徳^{とく}

川がの幕府其政衰へ剩外國の事とも起りて其侮をも受
 けぬへき勢いに迫りければ朕ちんか皇祖仁孝天皇皇考孝明天
 皇わういたく宸襟しんきんを惱なやし給たまひしこそ忝かたじけなくも又惶またかしこげれ然しかるに朕ちん
 幼いとけなくして天津日嗣あまつひつぎを受けし初征夷大將軍其政權はじめせいいたいしやうぐんそのせいけんを返上へんじやうし大
 名みやう小名其版籍せうみやうそのはんせきを奉還ほうくわんし年としを經へして海内一統かいたいつとうの世よとなり古
 の制度せいどに復ふくしぬ是文武の忠臣良弼これぶんぶありて朕ちんを輔翼ほよくせる功績いさを
 なり歴世祖宗れきせいそそうの專も蒼生さうせいを憐あはれ給たまひし御遺澤ごゆゑたくなりといへとも
 併しか我臣民わがしんみんの其心そのこころに順逆じゆんぎやくの理ことわりを辨わきまへ大義たいぎの重おもきを知しれ
 るか故ゆゑにこそあれされは此時このときに於おて兵制へいせいを更あらため我國わがくにの光ひかりを

輝かがやさんとおも思おもひこの此この十五ねん年ねんかほど程ほどにりく陸りく海かい軍ぐんのせい制せいをいまはいま今いまのさま様さまにたて建たて

定さだめさだぬそれ夫い兵い馬ばのたい大たい權けんはちん朕ちんかす統すふところるところ所ところなそのれそのはその其その司つか司つかをさこそしん臣しん下か

にはま任ますまなまれその其その大たい綱いはちん朕ちん親みづ之みづをか攬かりと肯あてあてしん臣しん下かにゆ委ゆぬたへたきたも

のしにしあしらしすし子し子し孫そん孫そんにいた至いたるあまあてあ篤あくこの斯この旨むねをつた傳つたへてん天てん子しはぶん文ぶん武ぶの

大たい權けんをしやう掌あ握あするぎのぎ義ぎをぞん存ぞんしてふた再ふた中ちゆう世せ以い降こうのごと如ごときしつ失しつ體たいななから

んのこのとのをの望のむのなりちん朕ちんはちん汝ちん等ちん軍ちん人ちんのたい大たい元げん帥すうなるそさされちんはちん朕ちんはちん汝

等ちをこ股こ肱ことたの頼たのみちん汝ちん等ちんはちん朕ちんをちん頭ちん首ちんとあ仰あきあてそ其そ親しはた特たにふ深ふか

るちんへちんきちん朕ちんかこ國こ家かをは保は護ごしてしやう上しやう天てんのめ惠めにお應おじそ祖そ宗そのおん恩おんにむ報むいむま

ゐこらこすこるこ事こをえ得えるえもえ得えさえるえもちん汝ちん等ちん軍ちん人ちんかその其その職しやくをつ盡つすつとつ盡つさつゝ

るとに由るそかし我國の稜威振はさることあらは汝等能く朕
 と其憂を共にせよ我武維揚りて其榮を耀さは朕汝等と其譽
 を偕にすへし汝等皆其職を守り朕と一心になりて力を國家
 の保護に盡さは我國の蒼生は永く太平の福を受け我國の威
 烈は大に世界の光華ともなりぬへし朕斯も深く汝等軍人に
 望むなれば猶訓諭すへき事こそあれいてや之を左に述へむ
 一、軍人は忠節を盡すを本分とすへし

凡生を我國に稟くるもの誰かは國に報ゆるの心なかるへき
 況して軍人たらん者は此心の固からては物の用に立ち得へ

しとも思はれず軍人にして報國の心堅固ならざるは如何程
 技藝に熟し學術に長ずるも猶偶人にひとしかるへし其隊伍
 も整ひ節制も正くとも忠節を存せざる軍隊は事に臨みて烏
 合の衆に同かるへし抑國家を保護し國權を維持するは兵
 方に在れば兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論
 に惑はず政治に拘らず只一途に己か本分の忠節を守り
 義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも輕しと覺悟せよ其操を
 破りて不覺を取り汚名を受くるなかれ

一、軍人は禮儀を正くすへし

凡軍人には上元帥より下一卒に至るまで其間に官職の
 階級ありて統屬するのみならず同列同級とても停年に新舊
 あれは新任の者は舊任のものに服従すへきものその下級のも
 のは上官の命を承ること實は直に朕か命を承る義な
 りと心得よ己か隸屬する所にあらずとも上級の者は勿論
 停年の己より舊きものに對しては總へて敬禮を盡すへし又
 上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるへ
 からず公務の爲に威嚴を主とする時は格別なれとも其外は
 務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一致して王

勅諭

事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮儀を紊り上を敬はず
 下を惠ますして一致の和諧を失ひたらんには誓に軍隊の蠹
 毒たるのみかは國家の爲にもゆるし難き罪人なるへし

一、軍人は武勇を尙ふへし

夫武勇は我國にては古よりいと貴へる所なれは我國の
 臣民たらんもの武勇なくては叶ふまし況して軍人は戰に
 臨み敵に當るの職なれば片時も武勇を忘れてよかるへきか
 さはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同からず血氣にはや
 り粗暴の振舞なとせんは武勇とは謂ひ難し軍人たらむもの

は常に能く義理を辨へ能く膽力を練り思慮を殫して事を謀るへし小敵たりとも侮らず大敵たりとも懼れず己か武職を盡さむこそ誠の大勇にはあれされは武勇を尙ふものは常人に接るには溫和を第一とし諸人の愛敬を得むと心掛けよ由なき勇を好みて猛威を振ひたらは果は世人も忌嫌ひて豺狼などの如く思ひなむ心すへきことにこそ

一、軍人は信義を重んずへし

凡信義を守ること常の道にはあれとわきて軍人は信義なくては一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし信とは

己か言を踐行ひ義とは己か分を盡すをいふなりされは信義
 を盡さむと思はし始より其事の成し得へきか得へからざる
 かを審に思考すへし臆氣なる事を假初に諾ひてよしなき
 關係を結び後に至りて信義を立てんとすれば進退谷りて身
 の措き所に苦むことあり悔ゆとも其詮なし始に能事の順
 逆を辨へ理非を考へ其言は所詮踐むへからすと知り其義は
 とても守るへからすと悟りなは速に止るこそよけれ古
 より或は小節の信義を立てんとて大綱の順逆を誤り或は
 公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守りあたら英雄豪傑と

もか 禍わざはひに遭あひ身を滅はろはし屍かばねの上うへの汚を名めいを後世のちのよまで遺のこせること其例そのためしずく 尠すくなからぬものを深く警いましめてやはあるへき

一、軍人ぐんじんは質素しつそを旨むねとすへし

凡質素およそしつそを旨むねとせされは文弱ぶんじやくに流ながれ輕薄けいはくに趨はしり驕奢けうしゃ華靡かびの風ふうを好みこの遂つひには貪汚たんをに陥おちりて志こころも無下むげに賤いやしくなり節操せつさうも武ぶ勇いゆうも其甲斐そのかひなく世人よのひとに爪つまはしきせらるゝ迄までに至いたりぬへし其その身み生しやう涯がいの不幸ふかうなりといふも中中なかなか愚おろかなり此風このふう一ひとたひ軍人ぐんじんの間あひだに起おこりては彼かの傳染病てんせんびやうの如ごとく蔓延まんえんし士風しふうも兵氣へいぎも頓とみに衰おとろへぬへきこと明あきらかりなり朕深ちんふかく之これを懼おそれて曩さきに免黜めんちゆつ條例てうれいを

施行し略此事を誠め置きつれと猶も其惡習の出んことを憂

ひて心安からねは故に又之を訓ふる所かし汝等軍人ゆ

め此訓誠を等閑にな思ひそ

右の五ヶ條は軍人たらんもの暫も忽にすへからすさて之を

行はんには一の誠心こそ大切なれ抑此五ヶ條は我軍人の精

神にして一の誠心は又五ヶ條の精神なり心誠ならされは如

何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にかは立つへ

き心たに誠あれは何事も成るもの所かし況してや此五ヶ條は

天地の公道人倫の常經なり行ひ易く守り易し汝等軍人能く

朕ちんか訓をしへに遵したがひて此道このみちを守まもり行おこなひ國くにに報むくゆるの務つとめを盡つくさは日本にほん
國しくの蒼生さうせい舉こぞりて之これを悦よろこひなん朕ちん一人いちにんの憚よろこびのみならんや

勅諭チヨク
ユ
 (大正天皇
 大正元年七月三十一日
 陸海軍人へ賜フ)

朕オシ茲ココニ大統ダイトウヲ嗣ツキ烈聖レツセイノ遺烈キレツヲ承ウケ萬世バンセイ一系イツケイノ帝祚テイソヲ踐アムニ
 方アタリ特トクニ朕オシ力親愛シンアイスル陸海軍人リクカイゲンジンニ告ツク

惟オモフニ皇クワウカウサキ考囊クワンニ汝ナシ等ゲンジンニ軍人セイシンノ精神カデウ五箇條クンユヲ訓諭イツセイシ一誠イツセイ以テ
 之コレヲ貫ツラヌク可ベキヲ示シメシ給ダマヘリ汝ナシ等軍人ゲンジンハ夙シユク夜コノ此聖訓セイクンヲ奉體ホウタイシ
 累次ルイジノ征戰セイセンヲ經國威ヘコクキヲ宣揚センヤウシ皇基クワウキヲ恢弘クワイコウシ以テ曠クワウ古コノ偉績キセキ
 ヲ翼成ヨクセイシタリ

朕オシハ朕力チン統率トウソツスル所トコロノ軍隊ゲンダイハ即スナチ是レ皇考クワウカウノ慈育ジイク愛撫アイブシ給ダマヒ

タル所ノ軍隊ナルヲ念ヒ汝等軍人ノ忠勇ニ信倚シ皇考ノ遺業ヲ紹述シ倍々皇國ノ光威ヲ顯彰シ億兆ノ福祉ヲ増進セム
ゲフ セウジユツ マスマスクワウコク クワウキ ケンシヤウ オクテウ フクチ ソウシン
 コトヲ冀フ汝等軍人ハ皇考ノ遺訓ニ由リ以テ直ニ之ヲ朕
コヒネガ ナンチラ グンジン クワウカウ キクン ヨ メツ タダチ コレ チン
 カ躬ニ効シ愈々奉公ノ志ヲ鞏クシ思索ノ選ヲ慎ミ宇内ノ大
イタ イヨイヨホウコウ ココロザシ カダ シサケ セン ツツシ ウダイ ダイ
 勢ニ鑑ミ時世ノ進運ニ伴ヒ拮据勵精各其本分ヲ竭クシ朕カ
セイ カンガ ジセイ シンウン トセナ キツキヨレイセイオノオノソノホンブシ ツ チン
 股肱タルノ實ヲ舉ケ以テ皇謨ヲ扶翼セムコトヲ期セヨ
ココウ ジツ ア ムツ クワウボ フヨク

勅諭チヨクユ（今上天皇 昭和元年十二月二十八日）
陸海軍人ニ賜フ

朕チン祖宗ソソウノ威靈レイニ頼ヨリ萬世バンセイ一系イツケイノ大統ダイトウヲ嗣ツクニ臨リンミ朕チン力コ股コ肱コウヲ
陸海軍人リクカイゲンジンニ告ツク

惟オモフニ皇祖クワウソウ考夙ソクニ汝等ナンドラ軍人ケンジンニ聖訓セイクンヲ降クダシ給タマヒ皇考クワウカウ亦マ申マカネ
テ聖諭セイユヲ垂タレ給タマヘリ汝等ナンドラ軍人ケンケン眷々ケンフク服膺フクヨウシ克ヨク匪躬ヒキユウノ節セツヲ效イダ
シ盡ジン忠報チュウハク國ノ偉績キセキヲ建タテタリ

朕チンハ先朝センテウノ慈育ジイク愛撫アイブシ給タマヘル軍隊ケンダイヲ念オモヒ切セツニ汝等ナンドラ軍人ケンジンノ忠チュウ
誠セイ勇武ユウブニ信倚シンイシ烈聖レツセイノ遺業ヰゲフヲ紹述セウジュツシ倍々マスマス國威コクキヲ顯揚ケンヤウシ億兆オクテウ

HP「海軍砲術学校」公開史料

ノ慶福ヲ増進セムコトヲ冀フ

汝等軍人其レ克ク朕力意ヲ體シ先朝ノ訓諭ニ遵由シ審ニ

宇内ノ大勢ヲ察シ深ク時世ノ推移ニ鑒ミ切蹉砥礪愈々操守ヲ

固クシ一意奉公ノ至誠ヲ擢テ以テ宏猷ヲ扶翼セムコトヲ期

セヨ

戊申詔書

戊申詔書

(明治天皇 明治四十一年十月十三日)

二〇

朕^{チンオモ}惟^{ホウ}フ^シニ^{セウ}方^シ今^ヨ人^シ文^シ日^シニ^ヨ就^ナリ^ツ月^キニ^ス將^{トウ}ミ^{ザイ}東^{アイ}西^イ相^ヨ倚^ヒリ^シ彼^{アイ}此^ナ相^シ濟^ナシ^テ以^テ

テ^ソ其^フノ^{クリ}福^ト利^セヲ^チ共^コニ^コス^コ朕^{チン}ハ^コ爰^マニ^ス益^クト^ク國^{コウ}交^{コウ}ヲ^オ修^キメ^キ友^{ユウ}義^ギヲ^ア悖^ウシ^レ列^レ國^{コク}

ト^ト與^ナニ^ガ永^ソク^ケ其^ケノ^イ慶^ヨニ^ヨ賴^カラム^ヘコト^ニヲ^キ期^カス^ヘ願^ニミル^ニ日^ニ進^ニノ^ニ大^{ダイ}勢^{セイ}ニ

伴^トヒ^ナ文^{ブン}明^{メイ}ノ^ケ惠^ケ澤^{タク}ヲ^ト共^トニ^セム^トス^ル固^ゴヨ^リ内^{ウチ}國^{コク}運^{ウン}ノ^ハ發^{ハツ}展^{テン}ニ^マ須^マツ

戰^{セン}後^ゴ日^ヒ尙^ナ淺^ホク^ア庶^{シヨ}政^{セイ}益^{マス}ト^{コウ}更^{コウ}張^{チャウ}ヲ^{ヨウ}要^{ヨロ}ス^シ宜^シク^シ上^{シヤウ}下^{ウカ}心^{ココロ}ヲ^イ一^{イツ}ニ^チ忠^{チュウ}實^{ジツ}

業^ゲニ^フ服^{ケン}シ^{ケン}勤^{カン}儉^{ケン}産^{サン}ヲ^ヲ治^サメ^コ惟^シレ^シ信^{シン}惟^シレ^シ義^ギ醇^{ジュン}厚^{コウ}俗^{ゾク}ヲ^ナ成^クシ^ク華^{クワ}ヲ^サ去^サリ^{ジツ}實^{ジツ}

ニ^ツ就^{コウ}キ^{タイ}荒^{アイ}怠^イ相^{アイ}誠^{マシ}メ^ジ自^キ疆^{ヨウ}息^{ヨウ}マ^ササル^ヘシ

HP「海軍砲術学校」公開史料

抑ノモ我ワ力リキ神カミ聖セイナル祖ソ宗ソウノ遺キ訓クント我ワ力リキ光コウ輝キアル國コク史シノ成セイ跡セキトハ
 炳ヘイトシテ日ニツ星セイノ如ゴトシ寔マコトニ克ヨクク恪カク守シュシ淬サイ礪レイノ誠マコトヲ輸ツクサハ國コク運ウン發ハツ
 展テンノ本モト近チカク斯ココニ在アリ朕チンハ方ホウ今コンノ世セイ局キョクニ處シヨシ我ワ力リキ忠チュウ良リヤウナル臣シン民ミン
 ノ協キョウ翼ウヨクニ倚イシヤ藉シヤクシテ維キ新シンノ皇クワウ猷ユウヲ恢クワイ弘イコウシ祖ソ宗ソウノ威キ德トクヲ對ダイ揚ヤウセム
 コトヲ庶コイ幾ネガフ爾ナン臣チン民ミン其キレ克キク朕チン力リキ旨ムネヲ體タイセヨ

國民精神ノ振作更張ニ關スル詔書

(大正天皇 大正十二年十一月十日)

朕^{チンオホ}惟^{モト}フニ國家興隆^{コクカコソリウ}ノ本^{モト}ハ國民精神^{コクミンセイシン}ノ剛健^{ガウケン}ニ在^アリ之^{コレ}ヲ涵養^{カンヤウ}シ之^{コレ}ヲ振作^{シンサク}シテ以^{モツ}テ國本^{コクホン}ヲ固^{カマ}クセサルヘカラス是^{コレ}ヲ以^{モツ}テ先帝^{センテイ}意^イヲ教育^{ケウイク}ニ留^{トド}メサセラレ國體^{コクタイ}ニ基^{モトヅ}キ淵源^{エンゲン}ニ溯^{サカノボ}リ皇祖^{クワウソククワウソウ}皇宗^{キクン}ノ遺訓^{ウイケン}ヲ掬^{カカ}ケテ其大綱^{ソノダイカウ}ヲ昭示^{セウシ}シタマヒ後^{ノチ}又^{マタ}臣民^{シンミン}ニ詔^{ミコトノリ}シテ忠實^{ヂユウジツ}勤儉^{キンケン}ヲスス^{シンギ}シテ訓^{フシ}ヲ申^{カサ}ネテ荒怠^{クワウタイ}ノ誠^{イマシメ}ヲ垂^ダレタマヘリ是^{コレ}皆^{コレ}道德^{ダクドク}ヲ尊^{ソン}重^{チヨウ}シテ國民精神^{コクミンセイシン}ヲ涵養^{カンヤウ}振作^{シンサク}スル所以^{ユエニ}ノ洪謨^{コウボ}ニ非^{アラ}サルナシ爾^{ソライ}來

趨向一定シテ效果大ニ著レ以テ國家ノ興隆ヲ致セリ朕即位以
スウカウイツテイ カククワオホイ アラハモツ コクカ コウリュウ イダ チンソクキイ
 來夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ俄ニ災變ニ遭ヒテ憂
ライシユクヤキヨウキヨウ ツネ セウジユツ オモ ニハカ サイヘン ア イウ
 悚交至レリ
シヨウコモゴモイダ

輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌
バンキンガクジュツマスマヒラ ジンチヒ スス シカ フクワハウシヨウ ナラヒヤウヤキダ

シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前
ケイテウキダケ フツ マダシヤウ イマ オヨ ジヘイ アラダ アルヒ セン

緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚々大ニシテ文化ノ
シヨ シツツト オツ イハン コンジ サイクワハナハダイ ブンクワ

紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツヲヤ是レ實ニ上下協戮
セウフクコクリヨク シンコウ ミナコクミン セイシン マ コ ジツ ジヤウカケウリク

振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖訓ニ恪遵シ
シンサケカウチヤウ トキ シンサケカウチヤウ ミチ ダ センテイ セイクン カクジュン

テ其ノ實效ヲ擧クルニ在ルノミ宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智德
ソ ジツカサ ア ア ヨロシ ケウイク エンゲン ダ ヌツト チトク

ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質
ヘイシン ツト カウキ シユクセイ フウゾク キヤウレイ フクワハウシヨウ シリゾ シツ
 實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシ
ジツガウケン オモム ケイテウキ ゲキ ダ ヨニ コウチュウセイ キ ジンリン アキラカ
 テ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ
シンワ イダ コウトク マモ チツジョ ダモ セキニン オモン セツセイ タツト
 忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入リテハ恭儉勤敏
チュウカウキユウ ビ ア ハクアイキヨウゼン キ アツ イ キヨウケンキンビン
 業ニ服シ産ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテ力ヲ公益
ゲフ フク サン ヲサ イ イッコ リガイ ヘン チカラ コウエキ
 世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ル
セイム ツク モツ コクカ コウリュウ ミンゾク アンエイシャクワイ フクシ ハカ
 ヘシ朕ハ臣民ノ協翼ニ頼リテ彌々國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢
チン シンミン ケンヨク ヨ イヨイヨコクホン カダ ヌツ タイゲフ クワイ
 弘セムコトヲ冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ
コウ ヒネガ ナンヂシンミン コレ ツト

軍人心得

一、軍人ハ勅諭ノ趣旨ヲ奉體シ 大元帥陛下ノ股肱タルノ實ヲ擧ゲザルベカラズ

軍人ハ勅諭ノ聖旨ヲ奉體シ特ニ五箇條ノ訓諭ヲ心肝ニ銘シ一誠以テ之ヲ貫キ益

々奮勵努力シテ其ノ本分ヲ竭クスコトヲ心掛ケザルベカラズ明治天皇明治二十

八年 清國ト媾和ニ付軍人ニ下シ給ヒシ勅諭中

「汝等ニ軍人ノ精神五箇條ヲ訓諭シ忠節、禮儀、武勇、信義、質素貫クニ

一誠ヲ以テスヘキコトヲ告ケタリ—— 汝等カ深ク五箇條ヲ服膺シ——

——能ク朕カ股肱タルノ職ヲ盡シタルヲ嘉ス—— 五事ヲ服膺シ軍人

ノ本分ヲ恪守シ一誠以テ他日ノ報効ヲ期セヨ

明治天皇 明治三十八年露國ト媾和ニ付軍人ニ下シ給ヒシ勅諭中

「汝等ニ示スニ軍人ノ精神タル訓規五箇條ヲ以テ—— 陸ニ海ニ曠古

軍人心得

軍人心得

ノ大捷ヲ奏シ——以テ朕カ望ニ副ヘリ——常ニ朕カ訓諭ヲ服膺

シ朕カ股肱タルノ本分ヲ守リ益々勵精以テ報効ヲ期セヨ

大正天皇 大正元年軍人ニ下シ給ヒシ勅諭中

「——皇考襄ニ汝等ニ軍人ノ精神五箇條ヲ訓諭シ一誠以テ之ヲ貫ク可キヲ示シ

給ヘリ汝等軍人ハ夙夜此ノ聖訓ヲ奉體シ以テ——曠古ノ偉績ヲ翼成シ

タリ——皇考ノ遺訓ニ因リ以テ直ニ之ヲ朕カ身ニ効シ——各々

其本分ヲ竭シ朕カ股肱タルノ實ヲ擧ケ皇謨ヲ扶翼センコトヲ期セヨ

今上天皇陛下 昭和元年軍人ニ下シ給ヒシ勅諭中

「——皇祖考夙ニ汝等軍人ニ聖訓ヲ降シ給ヒ——汝等軍人眷々服膺シ克

ク匪躬ノ節ヲ効シ盡忠報國ノ偉績ヲ建テタリ——汝等軍人其レ克ク朕カ

意ヲ體シ先朝ノ訓諭ニ遵由シ——一意奉公ノ至誠ヲ擢テ以テ宏猷ヲ扶翼

センコトヲ期セヨ

ト勅^{ミコトノリ}シ給^{タマフ}ヒシ如^{セキクニ}ク聖訓^{セイクン}ノ奉^{ホウ}體^{タイ}ハ各戰役^{カクセンギキ}ヲ通^{ツル}ジ大捷^{ダイセツ}ヲ奏^{ソウ}シ國威^{クニイハ}ヲ宣揚^{センヤウ}スルノ基
ヲナセリ吾等軍人ハ常ニ此ノ五箇條ヲ服膺^{フツボク}シ之ヲ貫クニ誠心^{テイシン}ヲ以テシ益々修養^{シウヤウ}

練磨^{レンマ}ヲ重ネ以テ聖恩^{セイオン}ノ萬分ノ一ニ報ヒ奉ラザルベカラズ

一、軍隊^{グンタイ}ハ軍紀^{グンキ}ニヨリ維持^{キザシ}セラレ軍人ハ之ガ保持^{ホク}勵行^{レイカウ}ニ力^{チカラ}メザルベカラズ

軍紀ハ軍隊ノ生命^{セイメイ}ニシテ軍隊統一ノ根本^{コンベン}タリ之ヲ嚴肅^{ゲンジュウ}ニ保持スルニハ各級軍人

ハ先ヅ軍人精神ノ鍛練^{ダンレン}ニ努メ己ノ軍人タル本分^{ホンブン}ヲ自覺^{ジカク}シ誠心誠意^{テイシンテイイ}規律^{キリウ}ニ服シ絶

對^{タイ}ニ上官ノ命令ニ從ヒ各自^{カクジ}其ノ職^{シヨク}ヲ盡スニアリ斯^カクシテ軍隊ハ一心同體^{イツシンドウタイ}トナリ

テ統一セラレ協同^{ケウドウ}一致ノ實ヲ擧ゲ以テ其ノ任務ヲ完全ニ遂行^{スイカウ}スルコトヲ得故ニ

軍隊ニ在リテハ常ニ最モ嚴肅ニ軍紀ヲ保持スルコトニ専心^{センシン}シ毫釐^{コウリン}モ之ヲ亂スガ

如^{シヨ}キ所存^{ゾクン}行爲^{カウキ}アルヲ許サズ

艦船職員^{カンセンシヨク}服務^{フクム}規程^{キチョウ}綱領^{コウレイ}ニ曰ク 軍紀^{グンキ}トハ軍人ノ精神^{セイシン}ヲ統一スベキ軍隊ノ生命^{セイメイ}ニ
シテ所謂^{イハユル}萬人ノ心ヲ以テ一人ノ心ノ如クナラシムルモノナリ是ヲ以テ艦船ノ軍

軍人心得

紀ハ最嚴肅ニシテ一絲モ紊レズ寸毫モ弛ミナク上ハ艦船ノ長ヨリ下ハ一兵ニ至ルマデ宜シク脈絡ヲ一貫シテ之ヲ保持セザルベカラズ

又曰ク 軍隊ニ於ケル服従ハ絶対的ニシテ軍隊第二ノ天性タラザルベカラズ從テ一旦命令ヲ受ケタル後或ハ其ノ行ヒ難キヲ訴ヘ或ハ其ノ實行ヲ懈リ或ハ

其ノ當否ヲ議スルガ如キハ斷ジテ之ヲ許スベカラズ

一、軍人ハ上官トナリテハ躬行實踐ヲ以テ部下ヲ指導シ部下トナリテハ誠心誠意ヲ以テ上官ニ信賴シ上下相和シテ一心同體ト爲リ以テ任務遂行ノ完全ヲ期セザルベカラズ

艦船職員服務規程綱領ニ曰ク 艦船ハ名譽アル歴史ヲ保有シ崇高ナル國家的精神ノ下ニ結合シテ終始分離スベカラザル海上軍隊ノ基本單位ニシテ乗員ノ爲ニハ存亡ヲ同ウスル干城タルト同時ニ喜戚ヲ偕ニスル家庭タリ故ニ乘員タル者ハ宜シク公私相和シ緩急相援ケ上官ハ躬行實踐以テ部下ヲ指導シ部下ハ誠心誠意

HP「海軍砲術学校」公開史料

以テ上官ニ信賴シ上ノ下ニ接スル寛嚴相濟ヒ恩威竝ビ行ハルルコト師父ノ子弟ニ於ケルガ如ク下ノ上ニ對スル專ラ恭敬ヲ主トシ其ノ教訓ヲ恪守シ之ヲ仰グコト猶子弟ノ師父ニ於ケルガ如ク上下融合全艦ヲ舉ゲテ一心同體トナリ艦ノ任務ヲ完全ニ遂行スルニ努力スベシ

一、軍人ハ常ニ氣力ヲ旺盛ニシ身體ヲ剛健ニスルヲ必要トス

艦船職員服務規程綱領ニ曰ク 軍隊ハ士氣常ニ旺盛ニシテ堅ヲ摧キ銳ヲ挫クノ概無カルベカラズ困苦缺乏ヲ常トスル艦船ニ於テ殊ニ然リトス故ニ乗員タル者ハ元氣充實常ニ攻撃精神ヲ振起シ職責ヲ竭スニ方リテハ猛然トシテ苦ニ堪ヘ敢然トシテ難ニ赴キ水火モ避ケザルノ氣力アルヲ要ス旺盛ナル士氣ハ剛健ナル身體ニ須ツモノ多シ乗員タル者ハ居常衛生ヲ重シシ體格ヲ練リ事ニ臨ミテ勇往邁進百折不撓ノ素質ヲ涵養セザルベカラズ

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

海軍兵須知提要

第一章 軍艦

軍艦ハ海上ニ於ケル浮城ニシテ戰時ニ在リテハ外敵ヲ海洋ニ擊破シ或ハ進ンデ敵地ヲ攻略スル等ノ任務ニ從事シ平時ニ在リテハ居留民ヲ異境ニ保護シ或ハ必要海面ノ警備ニ任ズル等常ニ國家ヲ鎮護シ國利ヲ擁護スルノ衝ニ立ツベキモノニシテ國際法上本國領土ノ延長ト見做サレ公海又ハ外國領域内ニ在ル場合ト雖モ左ノ特權ヲ有スルモノトス

一、軍艦ハ外國政府ノ干渉ヲ受クルコトナシ若シ外國政府強テ之ニ干渉ヲ加ヘントセバ兵力ヲ以テ拒ムコトヲ得

二、軍艦ハ外國ノ法權ニ服從セズ從テ外國ノ警察權、裁判權、臨檢搜索權等

ノ艦内ニ行ハル、コトヲ許サズ

三、軍艦ハ外國ニ對シ納稅ノ義務ナシ

四、軍艦ハ主權ニ伴フ所ノ尊敬ト禮遇トヲ受クベキモノトス

軍艦ノ標識ニハ軍艦旗ヲ用フ

軍艦旗ハ斯ノ如キ任務竝ニ特權ヲ有スル軍艦ヲ表彰スルモノナレバ我等ハ我軍艦

旗ニ對シ常ニ崇敬ノ念ヲ保持セザルベカラズ

註 (イ) 特務艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、水雷艇及特務艇等モ軍艦ト同一ノ

性質ヲ有シ及同様ノ標識ヲ用フ

(ロ) 艦艇ニ搭載ノ船舟ハ艦艇ト同一ノ特權ヲ有ス

第二章 軍港、要港

第一節 軍港所在地

一、帝國ノ海軍及海面ヲ分チテ四海軍區トシ、各海軍區ニ軍港ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一海軍區軍港

神奈川県

横須賀

第二海軍區軍港

廣島縣

吳

第三海軍區軍港

長崎縣

佐世保

第四海軍區軍港

京都府

舞鶴

一、海軍區ハ其ノ軍港ニ置ク所ノ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

二、關東州ノ海面ヲ關東州海軍區トシ佐世保鎮守府之ヲ管ス

三、南洋群島委任統治區域ノ海軍海面ヲ南洋海軍區トシ横須賀鎮守府之ヲ管ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

第二章 軍港、要港

第二節 要港所在地

一、要港ハ左ノ五箇所トス

大^{オホ}湊^{ミナト}（青森縣） 馬^バ公^{コウ}（臺灣澎湖島）
鎮^{チン}海^{カイ}（朝鮮慶尙南道） 旅^{リョ}順^{ジュン}（關東州）

德^{トク}山^{サン}（山口縣）

第三章 軍機保護法〔諸例則卷四〕

軍事上ニハ種々機密ヲ要スル事項アリ、此ノ機密ヲ守ルコトハ極メテ大切ニシテ
 若シ漏洩シタリトセバ取返シ難キ不利ヲ來スモノナリ

現今世界各國ハ間諜ヲ使用シ他國ノ軍事上ノ機密ヲ探知セントシツ、アリ。之ガ
 爲ニハ巧妙ナル手段ニ依リ其ノ國ノ人ヲ使用シ又ハ機密ヲ知ル者ニ接近スル等ア
 ラユル手段ヲ弄シツ、アリ。而シテ之等軍事上ノ機密ヲ保護スルタメニ軍機保護
 法ヲ制定セラレタリ。本法ヲ議會へ提出スルニ當リ海軍大臣ハ「軍事上ノ秘密ヲ
 保護スルコトハ時ノ平戰ヲ問ハズ國土防衛上緊要ナルノミナラズ特ニ有事ニ際シ
 敵ヲ奇襲スル所以デアリマシテ戰勝ノ一大要因タルコトハ古今東西ヲ通ジテ不變
 ノ鐵則デアリマス云々」ト説明サレタリ。熟讀玩味スベキナリ

軍機保護法ノ内容ハ如何ト云フニ

一、軍事上ノ秘密ノ種類範圍ヲ明カニス

本法ニ適用サレルル軍事上ノ秘密ト稱スルハ作戰、用兵、動員、出師其ノ他軍事上秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件ヲ謂ヒ、此ノ詳細ハ海陸軍大臣ガ命令ヲ以テ定ムルコトト規定サレ此ノ圖書等ニハ「軍機」又ハ「軍極秘」ト標記シアリ

二、軍事上ノ秘密ヲ探知又ハ收集シタルノミニテ犯罪トナルコト

軍事上ノ秘密ヲ必要モナク探知シ又ハ收集スルコトハヤガテ秘密ヲ漏洩スルコト、ナルヲ以テ處罰セラル

三、軍事上ノ秘密ヲ他人又ハ外國ニ漏洩シタルモノハ嚴罰ニ處セラル

軍事上ノ秘密ナルコトヲ知り之ヲ他人又ハ外國ニ漏洩スルトキハ嚴罰ニ處セラレ又職務上軍事上ノ秘密ヲ知りタルモノガ行フトキハ一層重キ嚴罰ニ處セラル

四、軍事上ノ秘密ハ故意ニ探知又ハ收集シタルニアラズ單ニ偶然ニ知りタルモノモ他人又ハ外國ニ漏洩スルトキハ嚴罰セラル

五、間諜團ヲ組織シタル者ハ處罰セラル

六、過失ニ依リ軍事上ノ秘密ヲ他人ニ漏洩シタル者モ處罰セラル

例ヘバ職務上知りタル軍事上ノ秘密ヲ記セル日記帳又ハ秘密ノ地圖書類ヲ不用

意ノ間ニ屑屋ニ拂下ゲ秘密ノ漏洩セル時等モ處罰セラル

七、未遂罪モ處罰セラル

未遂罪トハ犯罪ノ實行行爲ニ着手セルモ其ノ犯罪ヲ遂行スルニ至ラザル間ニ外

部ノ障害ニ依リ又ハ自己ノ意志ニヨリ中止シタル爲其ノ犯罪ヲ遂行スルニ至ラ

ザルモノヲ謂フ

八、豫備陰謀又ハ他人ヲ誘惑煽動シタル者モ處罰セラル

九、防空其ノ他國土防衛ノタメ所要ノ規定

軍港、要港、保壘、砲臺、艦船、軍用飛行機、兵器、軍需品工場等諸種ノ軍事上ノ施設ノ測量、撮影、模寫、錄取等ヲ禁止サレアリ

一、外國艦船ノ不法入港ニ對スル規定

軍事上ノ秘密保護ノ必要上海陸軍大臣ハ開港以外ノ水面ニ外國船舶ノ出入ヲ禁止又ハ制限シ得ルコト、ナレリ。又之ヲ犯スモノハ處罰セラル

二、自首減刑ノ規定

以上ノ如キ犯罪ヲ犯セルモノモ後日改悛自首シタルトキハ減刑又ハ免除セラルコトトナレリ

以上ハ軍機保護法ノ大要ナルモ要ハ機密ヲ知レルモノガ漏洩セザルニアリ。故意ニ外國ニ漏洩スル如キモノハ元ヨリ許スベカラザル賣國奴的行爲ナリト雖モ元來日本人ハ非常ニ淡泊正直ナルタメ他人ヲ警戒スル性質ニ乏シク夫レガタメ不知不識ノ間ニ軍ノ機密其ノ他國家ノ大事ヲ漏洩スルコトアリト云ハル。例ヘバ汽車電車其ノ他何者カ判ラヌ公衆ノ前デ機密事項ヲ友人同志互ニ大聲ニテ話シ合ヒ漏洩スルコトアリ、又見學者ヲ案内スル際不用意ニ機密事項ヲ話スコトアリ、又郷里

知人へノ通信ツウシンザウ中機密事項ヲ不用意フヨウイニ蓄ツクキ送り其ノ他機密事項ヲ記入セル紙片手帳等ヲ不用意ニ置キ忘レ又ハ棄ステ去ルコトアリ。斯ノ如キコトガヤガテ機密ヲ探知セントスル間諜ニ知レ取返シ難キ不利ヲ來ス結果トナル處オウレアリ。一般ノ人ニトリ極メテ些少ノ事ニテ何デモナキ様ナ事モ專問家センモンカノ眼ヨリ見レバ極メテ貴重キチモウナル資料トナルコトアリ。故ニ機密キミツヲ知ル事多キ軍人ハ機密保持ニ關シテ充分ノ注意ト努力ドリョクヲ拂ハザルベカラズ

第四章 海軍軍人ノ階級

第四章 海軍軍人ノ階級

○第一節 海軍武官官階

附表第一ノ如シ

○第二節 海軍兵職階

附表第二ノ如シ

○第三節 各兵種ノ性能

水兵員

兵曹

航海、砲術、水雷、通信、運用ノ各科ニ分レ操舵、喇叭吹奏、信號、艦砲射撃、測的、魚雷發射、電信、船具取扱等ノ

航空員

航空機ノ操縦、偵察、整備、機上作業及航空機用諸兵器ノ整

整備員

航空機及航空發動機ノ整備並ニ修補等ノ任務ニ従事ス

職務ヲ分擔ス

備等ノ任務ニ従事ス

機^キ關^{クワン}員^{イン}（機^キ關^{クワン}兵^{ヘイ}曹^{ソウ}）
 工^{コウ}作^{サク}員^{イン}（工^{コウ}作^{サク}兵^{ヘイ}曹^{ソウ}）
 軍^{クン}樂^{ラク}員^{イン}（軍^{クン}樂^{ラク}兵^{ヘイ}曹^{ソウ}）
 從^{ジュウ}事^ジス
 砲^{ポウ}者^{シャ}ヲ取^ク扱^{キョク}フ
 傷^{シヤウ}病^{ビョウ}者^{シャ}ヲ取^ク扱^{キョク}フ
 金^{キン}屬^{コク}工^{コウ}業^{ゲツ}、木^{モク}具^ク工^{コウ}業^{ゲツ}、潛^{セン}水^{スイ}作^{サク}業^{ゲツ}ニ從^{ジュウ}事^ジス
 軍^{クン}樂^{ラク}ヲ奏^{ソウ}シ戰^{セン}闘^{トウ}ニ際^{サイ}シテハ傳^{デン}令^{レイ}、彈^{ダン}藥^{ヤク}供^{キョウ}給^{キョウ}又^{マタ}ハ傷^{シヤウ}者^{シャ}運^{ウン}搬^{バン}等^{トウ}ニ

看^{カン}護^ゴ員^{イン}（看^{カン}護^ゴ兵^{ヘイ}曹^{ソウ}）
 主^{シュ}計^{ケイ}員^{イン}（主^{シュ}計^{ケイ}兵^{ヘイ}曹^{ソウ}）
 主^{シュ}計^{ケイ}兵^{ヘイ}曹^{ソウ}（主^{シュ}計^{ケイ}兵^{ヘイ}曹^{ソウ}）
 庶^{シヨク}務^ム、會^{クワイ}計^{ケイ}、給^{キョウ}與^ヨノ事^ジヲ掌^{テウ}リ食^{シヨク}物^{モノ}ノ調^{テウ}理^リ等^{トウ}ニ從^{ジュウ}事^ジス
 看^{カン}護^ゴ員^{イン}及^キ主^{シュ}計^{ケイ}員^{イン}ヲ總^{ソウ}稱^{ケウ}シテ特^{トク}務^ム員^{イン}ト稱^{ケウ}ス
 （附^フ記^キ） 軍^{クン}樂^{ラク}員^{イン}、看^{カン}護^ゴ員^{イン}及^キ主^{シュ}計^{ケイ}員^{イン}ヲ總^{ソウ}稱^{ケウ}シテ特^{トク}務^ム員^{イン}ト稱^{ケウ}ス

第^{ダイ}五^ゴ章^{チャウ} 海^{カイ}軍^{クン}服^{フク}制^{セイ}

○第^{ダイ}一^{イチ}節^{セツ} 服^{フク}制^{セイ}摘^{テツ}要^{ヤウ}

一、識^{シキ}別^{ベツ}線^{セン}、兵^{ヘイ}科^カ以^イ外^{ガイ}ノ士^シ官^{カン}、特^{トク}務^ム士^シ官^{カン}及^キ准^{ジュン}士^シ官^{カン}ハ左^サノ區^ク分^{ブン}ニ從^{ジュウ}ヒ識^{シキ}別^{ベツ}線^{セン}ヲ附^フス

HP「海軍砲術学校」公開史料

第五章 海軍服制

	水 路 科	造 兵 科	造 船 科、 造 機 科	主 計 科	軍 醫 科、 藥 劑 科			機 關 科	士 官
				主 計 科	看 護 科	整 備 科	航 空 科	工 機 作 關 科	特 務 士 官、 准 士 官
	軍 樂 科								識 別 線 ノ 色
	藍	青	鰐 茶	白	赤	緑	青	紫	

兵科以外ノ候補生及機關學校、經理學校生徒ハ其ノ系統ニ從ヒ前項識別線ヲ附ス

二、袖章、ソデシヤウ 准士官以上ハ正装、ジュンシヤクワンイシヤウ 禮装、レイソウ 通常禮装及第一種軍装ニ袖章ヲ附シ官等

ヲ表スアラハ（第一圖）

禮衣以上ハ金線オウゴンヲ纏マツヒ袖先ニ近キ金線ノ下部ニ前項ノ識別線シキベツセンヲ附ス

〔軍樂科特務士官及軍樂兵曹長ハ識別線ヲ附セズ
准士官（軍樂兵曹長ヲ除ク）ハ金線ヲ附セズ識別線ノミヲ附ス〕

軍衣ハ黒毛線クロケヲ纏マツヒ識別線ヲ附セズ〔准士官（軍樂兵曹長ヲ除ク）ハ黒毛線ヲ纏マツハズ〕

候補生ノ禮衣ハ金線ヲ纏マツヒ識別線（兵科ヲ除ク）ヲ附ス。軍衣ハ黒毛線ヲ纏マツヒ

識別線ヲ附セズ

生徒セイトノ禮衣レイイ（兵學校生徒ヲ除ク）ハ識別線ノミヲ附シ軍衣ニハ附セズ

金線、黒毛線ハ大線、小線、半線トス

三、襟章、エリシヤウ 准士官以上及候補生、ジュンシヤクワンイシヤウ 生徒ノ各服装ニ於ケル襟章次ノ如シ（第二圖）

准士官以上ジュンシヤクワン 軍樂科特務士官及ダンガクワトクムシヤクワン 及候補生コウホセイ 軍衣グンイ 線ハ綯織金線シマオリキンス 櫻花ハアケクラ 銀色金線ギンイロキンス

第五章 海軍服制

金線ノ兩側リヨウソウ線間ヲセンマニ識別線ヲ附スシキベツセン

生徒軍衣 錨

士官シ 官クワン

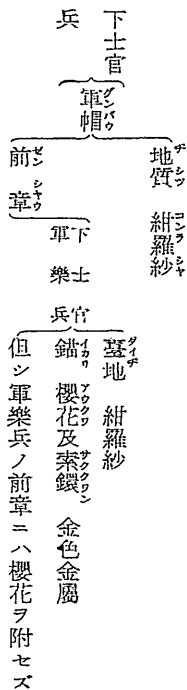
特務士官トクムシクワン 二重外套及雨衣チュウウグワイトウ 櫻花金色金屬アマイ但シ特務士官ハ銀色金屬

四、肩章ケンシヤウ 士官ノ正肩章其ノ他准士官以上及候補生、生徒ノ夏衣カマイ及外套肩章等第

三圖ノ如シ

五、帽バウ 士官、特務士官トクム 軍樂科クンガク 正帽其ノ他准士官以上及候補生、生徒並ニ下士

官、兵ノ軍帽等次ノ如シ (第四圖)



HP「海軍砲術学校」公開史料

兵 軍樂兵
ヲ除ク
品質 黒八丈織
文字及鏝 金箔

六、劍帶及劍、軍刀 士官ノ正劍帶其ノ他准士官以上候補生、生徒、軍樂員ノ劍帶及劍、軍刀第四圖ノ如シ

七、飾緒 黄色及白色ノ二種アリ (第四圖)

將校タル將官 參謀官ニアラザル將官ハ
正裝及禮裝ニノミ佩用ス

參謀官 (黄)飾緒

副官

皇族附武官 (白)飾緒

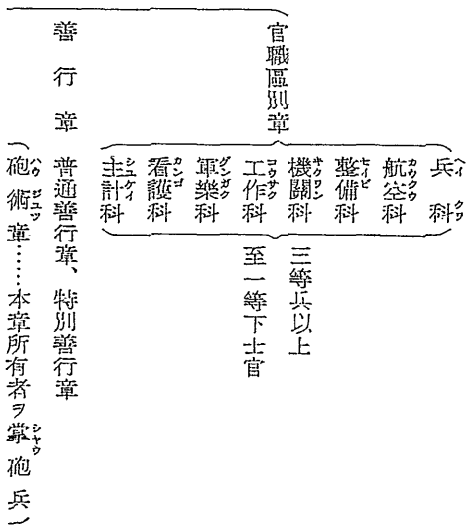
八、下士官兵臂章 臂章ニハ官職區別章、善行章及特技章ノ三種アリ

一、官職區別章ハ右肘ノ上部ニ附シ一等下士官以下三等兵以上ノ兵種及等級ヲ

表ハス (第五圖)

第五章 海軍服制

- 二、ビツカクシヤウ 善行章ハ官職區別章ノ上部ニ附ス（第五圖）
- 三、トクギシヤウ 特技章ハ左肘ノ上部ニ附シ各種練習生教程卒業者ヲ表ハス（第六圖）



HP「海軍砲術学校」公開史料

第五章 海軍服制

臂章

特技章

水雷術章 スライ	運用術章 ウツヨウ	信號術章 シゴウ	電信術章 デンシ	航空術章 カウクウ	航空兵器術章 カウクウヘキ	整備術章 セイビ	測的術章 ソク	軍樂術章 グンガク	機關術章 キカウ	電機術章 デンキ	工作術章 コウサク	看護術章 カンゴ	經理術章 ケイリ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
右 掌水雷兵	右 掌帆兵	右 掌信號兵	右 掌電信兵	右 掌航空兵	右 掌航空兵器兵	右 掌整備兵	右 掌測的兵	右 掌機兵	右 掌機兵	右 掌電機兵	右 掌工作兵	右 掌看護兵	右 掌經理兵
								掌内火兵	掌内火兵	掌内火兵			
								ト稱ス	ト稱ス	ト稱ス			ト稱ス

〔衣糧術章……同

右 掌衣糧兵ト稱ス

臂章ハ

禮衣ニハ(軍樂員ノミ)	軍衣ニハ	夏衣ニハ	外套(官職區別ニハ)
臺地 赤絨	臺地 紺絨	臺地 白布	臺地 紺絨
製式 金縷	製式 赤絨	製式 赤絨	製式 赤絨
形状圖ノ如シ	形状圖ノ如シ	形状圖ノ如シ	形状圖ノ如シ
ヲ用フ			

○第二節 服装令及同施行細則摘要

一、海軍軍人ノ服装ハ左ノ四種アリ (一、二、三、四、七、八圖参照)

一、正装

二、禮^{レイ}装^{ゾウ}

三、通常禮^{フウジョウレイ}装^{ゾウ}

四、軍^{イクサ}装^{ゾウ}

但シ候補生^{コウボセイ}及生徒^{セイテウ}ニハ正装、禮装ナク、下士官及兵^{（軍樂員ヲ除ク）}ニハ正装、禮

装、通常禮装ナシ。軍樂兵ニハ正装、通常禮装ナシ

二、軍樂員禮装ヲ爲スベキ場合^{バアヒ}

准士官以上正装又ハ禮装ヲ爲ス時

三、下士官及兵軍装ヲ爲スベキ場合

准士官以上正装、禮装、通常禮装ヲ爲スベキ場合及一般勤務^{パンシヤム}ノ時^{トキ}

軍装ヲ分チテ第一種^{ダイ}及第二種^{ジユ}トス

第一種軍装ハ夏季^{カキ}以外ニ用ヒ第二種軍装ハ正装着用ノ場合ノ外夏季ニ用フ

四、右ノ服装ノ外事業服^{ジゲツフク}ナルモノアリ。其ノ着用ノ場合左ノ如シ^{チキョウ}

第五章 海軍服制

二〇

下士官及兵艦船部隊、學校等ニ在リテ就業ノ際之ヲ着用ス。此ノ場合ニ於テハ軍帽ニ日覆ヲ附ス

五、艦船内ニ於テ石炭搭載其ノ他汚染事業ニ従事スル時ハ下士官及兵ニ掃除服ヲ着用セシムルコトヲ得

六、下士官及兵臂章取付方左ノ如シ

イ、下士官ニ在リテハ腕ノ屈曲部ノ上方約指二本幅ノ所ニ官職區別章ノ下邊ヲ

置キ該章ノ上邊ヨリ更ニ同距離ノ所ニ善行章ヲ置クコト左圖第一ノ如クス

特技章ハ官職區別章ニ準ズ

ロ、兵ニ在リテハ腕ノ屈曲部（服ノ疊目ノ内方）ニ官職區別章又ハ特技章ヲ置

クノ外下士官ニ同ジ

HP「海軍砲術学校」公開史料

第五章 海軍服制

帽バツ



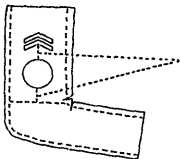
鍮ノ鑲ノ頂上ヲ
帽ノ下縁ト概ネ
一致セシムル如
ク附着ス

袴ハカマ



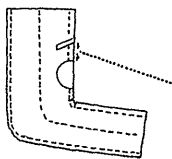
七、兵軍帽前章取付方並ニ袴ノ紐締ハ左圖ノ如シ

官士下 圖一第



此ノ間各二指ヲ入ル
ル丈ノ距離ヲ置ク

兵 圖二第



此ノ間二指ヲ入ル
ル丈ノ距離ヲ置ク

第五章 海軍服制

二二

八、下士官兵ハ儀式、點檢ノ場合ヲ除クノ外茶褐色 鼠色又ハ黑色ノ靴下ヲ用ウルコトヲ得

九、陸上ニ於テ行軍、演習等ヲ爲ス場合ニ於テハ脚絆ヲ用ウベシ

下士官及兵ノ脚絆ハ白色トシ准士官以上候補生及生徒ノ脚絆ハ紺色トス

一〇、雨衣ハ雨雪ノ時室外ニ於テ之ヲ着用ス

一一、制服着用ノ時ハ上衣ノ外部ニ時計鏈鎖等ヲ露ハスベカラズ

一二、下士官及兵ハ儀式、點檢等ノ場合ヲ除クノ外防寒ノ爲白色、鼠色又ハ茶褐色ノ手袋ヲ用ウルコトヲ得但シ軍樂員ノ交附手袋ハ

一三、下士官及兵ノ外套及手袋使用期間ハ十二月一日ヨリ翌年三月十五日迄トス

一四、下士官及兵外套又ハ雨衣ヲ着用スル時劍帶ハ其ノ上ニ帶ブベシ

一五、當番外套ハ艦船部隊、學校等ニ於テ下士官及兵當直勤務ノ時之ヲ着用ス

一六、勳章及記章ハ各種ノ服装ニ之ヲ佩用ス但シ軍裝ニ在リテハ一般勤務ノトキ

ハ之ヲ佩用セザルヲ例トス

一七、下士官及兵ハ制規外ノ服装ヲ爲スコトヲ許サズ

一八、准士官職務心得タル一等下士官本務ヲ行フニ當リ必要アルトキハ部内限

リ其ノ着用スル上衣又ハ外套ノ左臂ニ准士官職務心得章ヲ附スベシ

一九、部内文官同待遇者及海軍官衙學校等ノ雇員傭人徽章左ノ如シ（襟ノ釦孔ニ

附ス）

海軍文官、同待遇者（部内限待遇者ヲ含ム）及海軍官衙學校等ノ雇員傭人其ノ

本務ヲ行フ際ハ左胸部ニ左圖ニ依ル徽章ヲ附スベシ

海軍官衙學校等ニ勤務スル海軍武官平服ヲ着用シ構門ヲ出入スル場合ハ所屬長

官ノ定ムル所ニ依リ左胸部ニ左圖ニ依ル徽章ヲ附スコトヲ得

HP「海軍砲術学校」公開史料

第五章 海軍服制

勅任文官



紺
白七寶
鶯絹糸絨

雇員



銀
紺七寶
白七寶
草七寶

士官、特務士官



紺
白七寶
紅絹糸絨

奏任文官



紺
白七寶
紫絹糸絨

傭人



銀
銅七寶

准士官



紺
白七寶
草絹糸絨

判任文官



銀
紺七寶
白七寶
水七寶

第六章 海軍禮式令

總則

一、本令中軍人ト稱スルハ海軍士官、特務士官、候補生、准士官、生徒及下士官兵ヲ謂ヒ上官又ハ上級者ト稱スルハ官等等級ノ上ナル者ヲ謂ヒ同級者ト稱スルハ官等等級ノ等シキ者ヲ謂ヒ下官又ハ下級者ト稱スルハ官等等級ノ下ナル者ヲ謂ヒ衛兵ト稱スルハ艦船部隊ノ衛兵ヲ謂ヒ番兵ト稱スルハ衛兵ノ守所ニ在ルモノヲ謂ヒ軍隊ト稱スルハ武裝ヲスルト否トニ關セズ又人員ノ多少ニ拘ラズ隊伍ヲ組タル軍人ノ集團ヲ謂ヒ隊長ト稱スルハ軍隊ヲ引率スルモノヲ謂フ

候補生ハ特務士官ノ下准士官ノ上トシ生徒ハ准士官ノ下下士官ノ上トシ其ノ禮ニ關シテハ候補生ハ士官ニ生徒ハ下士官ニ準ズ

二、陸軍軍人又ハ軍隊ニ對シテハ海軍軍人又ハ軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フ

ベシ

敬禮通則

一、軍人「君カ代」ノ奏樂又ハ喇叭（練習中ノ奏樂、喇叭ヲ除ク）ヲ聞クトキハ姿勢ヲ正スベシ

二、軍人ハ上官ニ對シ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同級者ハ互ニ敬禮ヲ交換スベシ

同時ニ二人以上ノ上官ニ對スルトキハ特ニ規定アル場合ノ外最高級ノ人ノミニ對シ敬禮ヲ行フヲ例トス

敬禮ヲ行フトキハ受禮者ノ答禮畢ルヲ待テ原姿勢ニ復スルモノトス

三、官等等級ノ識別困難ナル場合ニ在リテハ上下ヲ論ゼズ互ニ敬禮ヲ行フベシ

軍人各個ノ敬禮ハ面識アル上官ニ對シテハ其ノ服裝ノ如何ニ關セズ之ヲ行フベシ

四、軍人行進間敬禮ヲ行フトキハ歩調ヲ執ラザル速歩（武裝シタルトキヲ除ク）

ニ於テ行フ

但シ至急ノ要務ヲ帶ブルトキハ其ノ旨ヲ告ゲ駐歩ノ儘之ヲ行フコトヲ得

第一節 各個ノ敬禮

第一目 室内ノ敬禮

一、室内ト稱スルハ公室、私室、事務室、會食所、應接所等ヲ謂フ

但シ宮中、行在所等ノ廊下、賢所、正門内、神前及祭場等ハ室内ニ準ズ

二、室内ノ敬禮ハ先ヅ室外ニ於テ脱帽シ室内ニ入り受禮者又ハ敬禮ヲ受クベキモ

ノニ對シテ停止正面シ姿勢ヲ正シク受禮者ノ眼又ハ敬禮ヲ受クベキモノニ注目

シ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツベシ但シ帽ヲ手ニ

持ツトキハ右手ニテ其ノ庇又ハ前部ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ゲ其ノ内部ハ右股ニ對

セシム

下士官兵銃ヲ携フルトキハ室外ノ敬禮ニ同ジ

答禮ノ方法ハ敬禮ニ準ズ但シ著席者ノ答禮ハ其ノ儘體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ

敬禮者ニ注目スルヲ例トス

三、天皇ニ拜謁スルトキハ先ヅ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入り直ニ敬禮

シ更ニ進ミテ玉座ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ畢リテ退歩シ御室

ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出デ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去スベシ

但シ宮中ニ於テ特ニ規定アルモノハ之ニ從フ

最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ執リ先ヅ天皇ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度ニ傾ケ

頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保ツ

軍艦其ノ他ニ於テ御寫眞ヲ拜スルトキノ敬禮ハ右ニ準ズ

四、賢所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フベシ拜禮ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同

一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ祭典ニ參列スルトキハ式ノ施行中脱帽スベシ

- 五、軍人上官ノ居室ニ入ルトキハ其ノ席ヲ距ルコト適宜ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フベシ上官二人以上ナルトキハ先ヅ最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スベシ但シ在室者ニ主客ノ別アルトキハ先ヅ主タル者ニ對シ敬禮ヲ行フベシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同ジ
- 六、上官居室ニ來ルトキハ在室者ハ起立シテ敬禮ヲ行フベシ其ノ居間ヲ去ルトキ亦同ジ但シ上官ト應對スル者ヲ除クノ外一旦敬禮ヲ行ヒタル後著席スルコトヲ得
- 七、教練授業又ハ作業中ノ敬禮ハ教官又ハ監督者ノミ之ヲ行フヲ例トス但シ特ニ必要ト認ムルトキハ教官又ハ監督者ハ「敬禮」ト呼ビ在室者ヲシテ起立シテ敬禮ヲ行ハシムルコトヲ得
- 八、軍人室内ニ於テ上官ヨリ位記、勳記、功記、勳章、辭令書、證書、褒狀等ヲ受クルトキハ授與者ヲ距ルコト約三步ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後帽ヲ左脇ニ

第六章 海軍禮式令

三〇

挾ミ適宜前進シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ左手ヲ副ヘテ披見シ畢テ左手ニ移シ適宜退歩シテ原位置ニ復シ帽ヲ右手ニ移シ再ビ敬禮ヲ行ヒ退去スベシ

軍人室内ニ於テ上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ又ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ

前項ニ準ジ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ之ヲ呈スベシ執銃スルトキハ左手ヲ以テス

此ノ場合ニハ立銃ノ儘敬禮ヲ行フヲ例トス

軍人室内ニ於テ上官ヨリ命令、諭告等ヲ受ケ又ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキ亦前項

ニ準ズ

九、軍人室内ニ於テ公務ノ應對ヲ爲ストキハ下級者ハ起立シテ姿勢ヲ正スベシ但

シ上官ノ許可アリタルトキハ著席スルモ妨ナシ

一〇、軍人室内ニ入ルトキハ徐ニ戸ヲ敲キ在室者ノ應答ヲ得テ後入室スベシ但シ

士官室、事務室等ニ於テハ便宜省略スルコトヲ得

第二目 室外ノ敬禮

二、室外ト稱スルハ屋外、諸甲板、短艇内、砲臺、砲塔、通路、廊下等ヲ謂フ

二、室外ノ敬禮ハ舉手注目トス

舉手注目ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ゲ右臂ヲ右斜ニ右前腕及掌ハ一線ニ保テ五指ヲ伸シテ之ヲ接シ掌ヲ左方ニ向ケ食指ノ第三關節ヲ帽ノ右前部又ハ庇ノ右縁ニ當テ頭ヲ向ケテ受禮者ノ目又ハ敬禮ヲ受クベキ者ニ注目ス

但シ兩手ニ物品ヲ携帶シ擔荷シ其ノ他右手ヲ舉グルコト能ハザルトキハ其ノ儘頭ヲ受禮者又ハ敬禮ヲ受クベキモノニ向ケ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クベシ

三、下士官兵銃ヲ携フルトキノ敬禮ハ天皇ニ對スルトキ又ハ拜神等ノ場合ニ於テハ著劍捧銃シテ注目又ハ目迎、目送ヲ行ヒ上官ニ對スル場合ニ於テハ行進中ハ頭ヲ向ケテ注目シ停止中ハ准士官以上ニ對シテハ捧銃シテ注目又ハ目迎、目送ヲ行ヒ其ノ者ニ對シテハ立銃シテ姿勢ヲ正スベシ

目迎、目送ハ敬禮中受禮者又ハ敬禮ヲ受クベキ者ニ對シ頭ヲ向ケ注目シ其ノ適宜ノ距離ヲ行進スル間之ヲ繼續スベシ

捧銃ノ場合ニ於ケル目迎、目送ハ銃ノ操作ヲ終リタル後直ニ之ヲ始メ立銃ト共ニ正面ニ復ス立銃又ハ單ニ姿勢ヲ正シテ行フ場合亦之ニ準ズ

下士官兵喇叭ヲ手ニスルトキハ其ノ持方ヲ變ズルコトナク前三項ノ規定ニ準ジ敬禮スベシ

四、軍人互ニ行遇ヒ又ハ近傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ受禮者ニ向ケテ敬禮ヲ行フベシ 答禮モ亦同ジ

五、軍人停止シアルトキ上官其ノ近傍ヲ通過スルトキハ之ニ面シ起立シテ敬禮ヲ行フベシ

六、軍人停止シアル上官ノ許ニ到ルトキハ其ノ上官ヲ距ルコト約六歩ノ所ニ於テ停止シ敬禮スベシ

HP「海軍砲術学校」公開史料

七、兵番兵ヘイバンベイノ前マヘヲ通過ツウワウスルトキハ之ニ對シ敬禮ケイレイヲ行フベシ

八、軍人上官ノ引率インソツスル軍隊ニ行遇ユキアヒ又ハ其ノ近傍キンバウヲ通過スルトキハ其ノ隊長ニ

敬禮ヲ行フベシ但シ現ニ服務中ノ儀仗隊ニ對シテハ敬禮ヲ行ハズ

九、軍人途上トシヤウニ於テ軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ官職クワンシニョク、等級トウキウヲ問ハズ其ノ柩ヒツギニ對シ

敬禮ヲ行フベシ

一〇、軍人乘車馬ゼンシャバニテ上官ニ遇フトキハ其ノ儘姿勢マシセイヲ正シ敬禮ヲ行フベシ

一一、軍人室外ニ於テ上官ヨリ位記ウチキ、勳記クンキ、功記コウキ、勳章クンシヤウ、辭令書ジレイシヨ、證書シヨウシヨ、褒狀等ハウジヤウ

ヲ受クルトキ書類シヨルホ其ノ他物件ブツケンヲ受ケ若ハ之ヲ呈スルトキ又ハ命令諭達等メイレイユダツヲ受ケ

若ハ陳述チンジュツヲ爲ストキハ本目第六ノ規定ニ依リ敬禮ヲ行フ外其ノ動作ドウサハ室内ノ

敬禮第八ノ規定ニ準ズ

一二、軍人上官ト同行スルトキハ其ノ左側又ハ後方ニ就クヲ禮トス但シ嚮導者キヤウダウシヤハ

此ノ限ニアラズ

第六章 海軍禮式令

三四

軍人舷梯ヲ昇ルトキハ上官ヲ先ニシ降ルトキハ下官ヲ先ニス短艇ヨリ陸岸ニ上ルトキ又ハ陸岸ヨリ短艇ニ乗ルトキモ同ジ（自動車ニ乗車スルトキハ先任者ヲ先ニシ右側左側中央ノ順ニ着席シ降車ノトキハ後任者先ヅ下車シテ先任者ノ下車ヲ待ツモノトス）

一三、敬禮ヲ行フベキ者受禮者ト遠隔シ在ル場合ト雖モ其ノ上官タルコトヲ識別スルトキハ必ず敬禮ヲ行フベシ

第二節 艦船ノ敬禮

第一目 軍艦ノ敬禮

一、定時ニ於テ軍艦旗ヲ掲揚降下スルトキハ左ノ敬禮ヲ行フベシ

イ、當直將校ハ艦橋ニ在リテ軍艦旗ニ面シ敬禮ス

ロ、衛兵（衛兵司令之ヲ指揮ス）ハ後甲板ニ整列シ軍艦旗ニ面シテ捧銃シ喇叭（軍樂隊在ルトキハ軍樂譜）「君カ代」ヲ一回吹奏ス

ハ、番兵バンペイハ軍艦旗ニ面シテ捧銃ス

ニ、上甲板以上ニ在ル者ハ軍艦旗ニ面シ敬禮ス

ホ、中甲板以下ニ在ル者ハ起立シテ姿勢ヲ正ス

附近陸岸ニ在ル者軍艦旗ノ掲揚、降下ヲ目撃スルトキハ之ニ面シテ停止シ敬

禮ヲ行フベシ

二、船舶、燈臺等ヨリ軍艦ニ對シ旗章ヲ降下シテ敬禮ヲ行フトキハ軍艦ハ軍艦旗

ヲ半バ降下シテ答禮ヲ行フベシ

三、士官、特務士官、候補生來艦又ハ退艦、著任、又ハ解職退艦、或ハ其ノ乘艦

ヲ出入スルトキ其ノ他大使、公使、領事等來艦又ハ退艦ノトキハ其ノ官等職

名又ハ旗章ヲ掲グルト否トニ依リ禮式極ネ差異アリテ送迎者、衛兵禮式、號笛

等ノ規定一様ナラザルモ當直衛兵伍長舷門ニ水兵一名舷梯側ニ在リテ敬禮ヲ行

フ規定ハ各場合ヲ通ジ同様ナリ

HP「海軍砲術学校」公開史料

第六章 海軍禮式令

第二目 短艇ノ敬禮

一、短艇ハ乗艇者ノ區分ニ從ヒ左表ニ依リ敬禮ヲ行フベシ

皇		天		受禮者		敬禮者	
員	乘	艇	短	汽走中	帆走中	橈漕中	海軍大臣、海軍大將以下
下士官以上	艇員外	短艇長	短艇指揮	運轉ヲ停止ス	總帆ヲ下ス	橈ヲ立ツ	
起立敬禮	起立敬禮	起立敬禮	起立敬禮				
員	乘	艇	短	汽走中	帆走中	橈漕中	下士官
艇員外下士官兵	艇員	短艇長	艇	同上	同上	同上	兵

HP「海軍砲術学校」公開史料

第六章 海軍禮式令

兵官士下		下 上	以 以	將 以	大 官	軍 官	海 士	臣 士	大 軍	海 准
員 乘	艇 短	員	乘				艇	短		
		准士官以上	士官兵	艇員外下	艇員	短艇長	短艇指揮	汽走中	帆走中	橈漕中
		儘坐シタル	ヲ正シテ注目ス	坐シタル儘姿勢	其ノ儘	起立敬禮	起立敬禮	現狀ノ儘		
員 乘	艇 短	員	乘				艇	短		
禮短艇長ノミ坐シタル儘敬	汽帆橈走走漕中 現狀ノ儘	艇員外下士官兵	艇員	艇員	短艇長	艇員	短艇長	汽走中	帆走中	橈漕中
			同上						同上	
									ヲ橈=又臣但 上漕對ハ旗シ グ中シ代ハ海 ハテ將將軍 橈ハ旗旗大	

三七

(備考)

一、短艇 天皇乘御ノ短艇ニ遇フトキハ該艇ヲ距ルコト約三十米ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒ約十米過去ル迄其ノ姿勢ヲ保チ其ノ他ノ短艇ニ遇フトキハ約十五米ノ所ニ於テ之ヲ行ヒ過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツベシ

但シ進行ヲ止メ又ハ速力ヲ緩ムルヲ危険ト認メタルトキハ進行ヲ繼續スルコトヲ得

二、櫓艇機漕中ハ本表中短艇ノ機ヲ立テ又ハ上グベキ場合ニハ操櫓ヲ止ムベシ但シ風波アルトキ又ハ急速ヲ要スルトキハ注目ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

三、短艇天幕ヲ張り起立シ能ハザル時又ハ「クラツチ」ヲ備へ、若ハ機索ヲ取付ケ在リテ機ヲ立ツル事能ハザル時ハ本表中機ヲ立ツベキ場合ニ機ヲ上ゲ起立ノ場合ニ座シタル儘姿勢ヲ正シ注目ス、櫓艇ニ在リテ多人數座艇スル時ハ首席者ノミ起立敬禮ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

四、短艇停止間ノ敬禮ハ本表ニ準ズ

但シ機艇ニシテ機ヲ出シアルトキハ機走中機ヲ立ツベキ場合ニ之ヲ立ツベシ

五、短艇ハ上官ノ乗艇ヲ追越サズ又ハ之ニ航路ヲ譲ルヲ禮トス但シ急ヲ要スル

トキハ此ノ限りニアラズ

二、短艇乗御ノ軍艦ト遇ヒ若ハ其ノ附近ニ近ヅクトキ又ハ附近陸岸ニ於ケル車駕

ニ遇フトキハ前條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ但シ帆走中ハ大帆ノ「シート」

ヲ伸スベシ

短艇定時軍艦旗ノ掲揚降下ヲ目撃スルトキハ亦前項ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベ

シ

短艇敬禮スベキ人ノ近傍ニ近ヅクトキ亦前條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ

三、守艇員ハ准士官以上ニ對シ起立シテ（天幕ヲ張リタルトキハ坐シタル儘）敬

禮ヲ行フベシ

守艇員ハ本艦ニ於テ「氣ヲ付ケ」ノ號音アルトキハ起立シテ姿勢ヲ正スベシ

四、禮砲ヲ受クル者ノ乘艇ハ禮砲施行間進行ヲ停止スベシ此ノ場合ニ於テハ機艇

ニ在リテハ禮砲ヲ始ムルト同時ニ漕ヲ上ゲ終ルト同時ニ進行ヲ始ムルヲ例トス

天皇乘御ノ短艇ハ禮砲ヲ受クル間ト雖モ進行ヲ停止スルコトナシ

第三節 軍隊ノ敬禮

一、軍隊ノ敬禮ハ獨立スル分隊、小隊又ハ中隊ニ在リテハ各隊毎ニ、大隊又ハ大

隊以上ニ在リテハ停止間ハ大隊毎ニ、行進間ハ中隊毎ニ之ヲ行フヲ例トス

軍隊敬禮ヲ爲スニハ停止間ニ在リテハ目迎目送ヲ行ヒ行進間ニ在リテハ歩調ヲ

執リ「頭右(左)」ノ號令ニテ受禮者又ハ敬禮ヲ受クベキモノニ注目シ「直レ」

ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

目迎、目送ハ「捧ゲ銃」(第一節第二目、第三項ノ要領ニヨル)又ハ「頭右(左)」

ノ號令ニテ之ヲ始メ「立テ銃」又ハ「直レ」ノ號令ニテ正面ニ復ス位置ノ關係

ニ依リ目迎、目送ヲ爲スコト能ハザルトキハ頭ヲ受禮者又ハ敬禮ヲ受クベキモ
ノニ向ケ注目スルモノトス

二、軍人ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ受禮者隊長ヨリ上級ナルトキニ限ル之ヲ行フニハ
停止間ニ在リテハ之ニ正面シ立銃ノ儘（隊長下士官兵ナル場合ニ於テ受禮者准
士官以上ナルトキハ隊長ハ捧銃ス）行進間ニ在リテハ行進ノ儘之ヲ行フ但シ下

士官兵ノ引率スル軍隊下士官兵ニ對スルトキハ隊長ノミ敬禮スベシ

前項ノ敬禮ハ受禮者隊長ヨリ約六歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ過去ル迄其
ノ姿勢ヲ保ツベシ

三、他ノ軍隊ニ對スル軍隊ノ敬禮ハ前條ノ規定ニ準ジ之ヲ行フ

此ノ敬禮ハ隊長ノ等級下ナル方先ニ之ヲ行ヒ同級ナルトキハ互ニ行フ但シ現ニ
服務中ノ儀仗隊ニ對シテハ敬禮ヲ行ハズ

准士官以上ノ引率スル軍隊下士官兵ノ引率スル軍隊ニ對シテハ隊長ノミ答禮ヲ

行フ

四、武裝セザル軍隊ノ敬禮ハ武裝シタル軍隊ノ敬禮ニ準ズ但シ隊長ノ敬禮ヲ舉手

注目トシ拜神ノ場合ヲ除ク外喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

五、軍隊途歩行進間ニ在リテハ 天皇ニ對スル場合ノ外軍隊ノ敬禮ヲ行ハズ隊長

ノミ敬禮ヲ行フヲ例トス

六、軍隊行軍又ハ教練中隊列ヲ解キ休憩シアルトキハ敬禮ヲ行ハザルヲ例トス野

外ニ於テ演習實施中亦同ジ

第四節 衛兵及番兵ノ敬禮

一、衛兵ノ敬禮ハ第二節所定ノ軍隊ノ敬禮ニ準ズ

二、番兵ノ敬禮ハ其ノ定位置ニ立テ受禮者約六步前ニ來ル時之ヲ始メ目迎目送ヲ

行ヒ六步過ル迄其ノ姿勢ヲ保ツベシ

番兵ハ 天皇ニ對シテハ捧銃(陸上ニテハ着劍捧銃)ノ敬禮ヲ行ヒ、准士官以上

高等文官ニ對シテハ捧銃シ、下士官ニ對シテハ立銃シテ姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ
兵ヨリ敬禮ヲ受クル時ハ立銃シテ姿勢ヲ正シ答禮ヲ行フベシ

三、番兵ハ軍艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇又ハ特務艦、特務艇ニ對シテハ捧銃ノ
敬禮ヲ行ヒ軍隊ニ對シテハ立銃シテ姿勢ヲ正シ、ソノ隊長ニ對シテハ官等ニ相
當スル敬禮ヲ行フベシ

四、番兵ハ軍人ノ樞ニ對シテハ其ノ官職等級ノ如何ヲ問ハズ捧銃ノ敬禮ヲ行フ
ベシ

五、番兵銃ヲ携ヘザル時ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フベシ。又番兵ハ夜間ト雖モ、受
禮者ヲ認識シ得ル時ハ之ニ對シ敬禮ヲ行フベシ

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第七^{ダイ}章^{シヤウ} 上陸^{ジキウリク}外出^{グワイシニウ}ニ關^{クワン}スル規程^{キテイ}

第一節 上陸^ト外出^{ソク}規則^{テキニウ}摘要

一、下士官兵上陸外出ニハ左ノ三種アリ

イ、入湯^{ニウトク}上陸^ニ(外出)

ロ、半舷^{ハンゼン}上陸^ニ(外出)

ハ、臨時^{リンジ}上陸^ニ(外出)

二、入湯上陸(外出)ハ左ノ各號ニ依リ夕食後ヨリ翌朝^{ヨクサキウシヨクジ}食時迄ノ間ニ於テ輪番^{リンバン}ニ之ヲ許可スルコトヲ得

イ、一^{シツ}等^{ソウ}下士官^{ゲシカウ}ニシテ善行章四線以上ノ者 其ノ人員^{ジニヤシ}ノ三分ノ二

ロ、前號以外ノ下士官^{兵ニシテ善行章二線以上ノ者ハ}下士官^{ニ準ズ} 其ノ人員ノ二分ノ一

ハ、一、二等兵^(下士官ニシテ善行章ヲ有セザル者ハ)一、二等兵^{ニ準ズ} 其ノ人員ノ四分ノ一

第七章 上陸外出ニ關スル規程

四六

ニ、三等兵(進級後經過一年未滿ノ者ヲ除ク)

其ノ人員ノ六分ノ一

ホ、教員(特修兵教育配属規則ニ規定セラルル者ニ限ル)

其ノ人員ノ三分ノ二

ヘ、前諸號(ベシヨガワ)ノ規定ニ拘ラズ非常ノ勞働ニ服シタル者

三、半舷上陸(グワイシユツ)(外出)ハ日曜日、祝祭日、記念日(キネンビ)其ノ他公暇日ニ於テハ式後(シキゴ)又ハ之

ニ準ズル時刻ヨリ土曜日ニ於テハ午食後ヨリ夕刻迄勤務員ノ半數(ハンスウ)(前項イ、ホニ該當スル者ハ

其ノ三)(分ノ三)ニ之ヲ許可スルコトヲ得

但シ當日入湯上陸(クウジツ)(外出)番ニ當ル者ニ引續キ之ニ入湯上陸(ニラタクジヤウリク)(外出)ヲ許スコ

トヲ得

前項イ、ホニ掲グル者土曜日及日曜日ノ兩日上陸(ニテヨウビ)(外出)番ニ當ルトキハ儀式(ギシキ)

又ハ作業ナキ場合ニ限り土曜日午食後ヨリ月曜日朝食時迄引續キ之ニ上陸(ジヤウリク)(外

出)ヲ許スコトヲ得

四、休暇中殘員(キウカ)ニハ入湯上陸(キウカ)(外出)竝ニ一月一日ヨリ三日迄ハ半舷上陸(キウカ)(外出)

ヲ許スコトヲ得

但シ二項イ、ホ該当者ハ各残員ノ二分ノ一以内トス

五、臨時上陸（外出）ハ司令長官ノ許可ヲ得テ臨時之ヲ許スコトヲ得

六、上陸外出ハ十二時間以内ニ帰投シ能ハザル地（各鎮守府ニテ地域ヲ定メアル時ハ之ニ從フ）ニ行クコトヲ得ズ。但シ已ムヲ得ザル事故ノ為旅行セントスル者ハ豫メ所屬長ノ許可ヲ受クベシ

七、患者ニシテ輕業又ハ休業ヲ命ゼラレタル者ニハ上陸（外出）ヲ許サザルヲ例トス

第二節 依願帰省手續

一、下士官兵ニシテ父母妻子重病又ハ死亡其ノ他已ムヲ得ナイ事故ノ為帰省ヲ要スルトキハ父母若ハ親族ニ於テ願書ヲ作り（重病ナルトキハ醫師ノ診断書ヲ添エ）市區町村長又ハ之ニ準ズベキモノ（例ヘバ警察署長）ノ證明ヲ受ケ本人ヨリ其ノ所轄長ニ願出ツベシ

第七章 上陸外出ニ關スル規程

四八

所轄長ハ審査ノ上往復日數ノ外十四日以内ノ休暇ヲ許可スルコトヲ得。歸郷中引續キ休暇ヲ請願セントスルトキ亦同ジ。但シ往復日數ノ外至休暇ヲ通算シ二十八日ヲ超過スルコトヲ得ズ

二、急ヲ要スル場合ニ於テハ父母若ハ親族ヨリ本人又ハ所轄長ニ宛タル電報ニヨリ休暇ヲ願ヒ出ヅルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ第一項ニ準ジ之ヲ處理ス。事後成ルベク速ニ正規ノ手續ヲ爲サシムルモノトス

第三節 旅行及上陸外出ノ心得

一、下士官兵轉勤轉乘ノ旅行中已ムヲ得ザル事故ノ爲指定期限内ニ到達シ能ハザル場合ニ在リテハ速ニ電報ヲ以テ其ノ旨所轄長ニ届出デ且左ノ書類ヲ得テ到達ノ上之ヲ差出スベシ

イ、汽船、汽車ニ關スル事項ハ 船長若ハ驛長ノ證明書
 ロ、傷痕、疾病ノ場合ハ 醫師ノ診斷書

ハ、其ノ他ノ事項ハ

市區町村長ノ證明書

外出（上陸）中ニ在リテモ亦之ニ準ズ

二、上陸（外出）シ歸期ニ遅レ所屬軍艦出航シタル場合ニハ左ノ所ニ届出デ命ヲ待ツベシ

イ、軍港ニ於テハ

海兵團當直將校ニ

ロ、要港ニ於テハ

要港部副官ニ

ハ、其ノ他ノ地方ニ於テハ

地方官ニ

ニ、外國ニ在リテハ

領事館ニ

三、休暇歸省中傷痍若ハ疾病ノタメ期限内ニ歸投シ能ハザルトキニハ醫師ノ診断

書ヲ添ヘ速ニ所轄長ニ届出ツベシ。書類ニテハ間ニ合ハザルトキハ先ヅ電報ニ

テ其ノ旨ヲ届出デ置キ然ル後書類ヲ以テスベシ

全快後國元出發ノ節ハ病狀經過ノ記事及診斷書ト市區町村長ノ證明書等ヲ持

第七章 上陸外出ニ關スル規程

參シサン歸投キトウノ上ウヘ之シヲ差出サシイダスベシ

四、上陸外ジヤウリクグワイシヨウ出中シュチュウハ特ニ態度タイド衛生エイセイニ注意チュウイスベシ

第八章 海軍刑法

一、海軍刑法ハ海軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ適用スル法ナリ

二、罪ノ種類概ネ左ノ如シ

(一) 叛亂ノ罪、黨ヲ結び兵器ヲ執リ叛亂ヲ爲シタル者、叛亂ヲ爲ス目的ヲ以テ

黨ヲ結び兵器彈藥等ヲ劫掠シタル者

(二) 擅權ノ罪、外國ニ對シ故ナク戰鬪ヲ開始シタル指揮官、命令ヲ待タズ故ナ

ク戰鬪ヲ爲シタル者等

(三) 辱職ノ罪 守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職

務ヲ怠リ或ハ從軍ヲ逃レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ

身體ヲ毀傷シタル者

(四) 抗命ノ罪 上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セザル者

(五) 暴行脅迫ノ罪 上官、守兵又ハ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者等

(六) 侮辱ノ罪 上官、守兵ヲ其ノ面前ニテ侮辱シ或ハ上官ヲ演説等ヲ以テ侮辱シタル者等

(七) 逃亡ノ罪 故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カザル者等

(八) 後發航期罪 艦船ノ乘員故ナク其ノ發航ノ期ニ後レタル者

(九) 軍用物損壞ノ罪 海軍ノ船艦工場其ノ他戰鬥ノ用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者等

(十) 掠奪ノ罪 戦地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シ或ハ戰場ニ於テ戦死者又ハ戦傷病者ノ衣服、財物ヲ褫奪シタル者等

(二) 俘虜ニ關スル罪 俘虜ヲ逃走セシメ或ハ逃走シタル俘虜ヲ藏匿シタル者
 (三) 違令ノ罪 守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者、豫備

HP「海軍砲術学校」公開史料

役等ニ在ル者故ナク召集ノ期限ニ後レタル者、艦船ノ危急ニ際シ指揮ヲ待ク
ズ其ノ艦船ヲ退去シタル者等

三、以上ノ如キ罪ヲ犯シタル時ハ其ノ輕重ニ從ヒ死刑、無期懲役、無期禁錮、有期懲役、有期禁錮等ニ處ス

第九章 海軍懲罰令

一、本令ハ刑法トシテ論ズベキ場合ニハ適用セズ

二、左ニ掲ゲタル行爲アルトキハ其ノ故意ニ出ヅルト過失ニ出ヅルトヲ問ハズ懲罰ス

- (一) 服從ノ道ニ違ヒタルトキ
- (二) 命令ヲ誤リ又ハ誤リ傳ヘタルトキ
- (三) 擅ニ職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カザルトキ
- (四) 擅ニ滞在スベキ地ヲ離レタルトキ
- (五) 徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタルトキ
- (六) 酩酊シテ事ヲ省セザルトキ
- (七) 艦船ヲ毀損シタルトキ

HP「海軍砲術学校」公開史料

(元)(六)(七)(六)(五)(四)(三)(三)(二)(一)(九)(八)

官物ヲ毀損、亡失、傷害又ハ汚損シタルトキ

官物ヲ濫用シタルトキ

濫ニ銃砲ヲ發射シ又ハ爆發物ヲ使用シタルトキ

火氣ノ取扱ヲ粗略ニシタルトキ

暴行、脅迫、鬭争又ハ侮辱ノ行爲アリタルトキ

詐欺ニ渉ル言語又ハ行爲アリタルトキ

給與又ハ貸與ヲ受ケタル物品ヲ濫ニ貸借シ又ハ其ノ定數ヲ缺キタルトキ

擅ニ艦船内ニ商貨ヲ積載シタルトキ

秘密ヲ漏泄シ又ハ漏泄セントシタルトキ

職務上ノ地位ヲ利用シ私利ヲ圖リタルトキ

制規又ハ命令ニ違ヒタル服装ヲ爲シタルトキ

前諸號ノ外職役ヲ怠リ若ハ職務上ノ義務ニ背キ又ハ規律ニ違ヒ若ハ威嚴信

用ヲ失スベキ行爲アリタルトキ

三、下士官兵ノ懲罰ヲ分チテ拘禁、禁足ノ二種トス

四、拘禁ハ三十日以内トシ演習及教育ノ外勤務ヲ停メ一室ニ閉錮ス

五、禁足ハ六十日以内トシ勤務ノ外艦船部隊、官衙又ハ居室ヲ出ヅルコトヲ禁ズ

六、拘禁又ハ禁足ノ處分ハ書面ヲ作り之ヲ言渡スモノニシテ、分隊所屬ノ下士官

兵ニ對スル拘禁又ハ禁足ノ處分ハ下士官ニ在リテハ其ノ分隊下士官ノ列前ニ於テ、兵ニ在リテハ其ノ分隊下士官兵ノ列前ニ於テ言渡スモノトス

第十章 クイシヤウ 海軍現役軍人婚姻取扱規則 カイゲンゲンシキゲンジンコンイントリアツビキヤンゾク

一、現役海軍下士官兵（キキユウウチウウ 歸休中ノ者ヲ除ク）婚姻ヲ爲サントスルトキハ、婚姻同意書及妻タルベキ者ノ戸籍謄本コヒキタクホンヲ添へ婚姻願書ヲ所轄長ニ提出シ、其ノ許可ヲ受ケザルベカラズ

二、所轄長ハ妻タルベキ者ノ身元調査ミモトナリウサヲ爲シ其ノ許否イヨヒヲ決定ス。許可シタルトキハ婚姻願書ニ許可ノ旨ヲ記入シテ本人ニ交付ス

三、許可ヲ得タル者ハ成ルベク速ニ戸籍上ノ手續ヲ爲シタル後所定ノ戸籍異動届コヒキイドウトドケヲ爲スベシ

四、同意ヲ要スル者左ノ如シ

本人及妻タルベキ者ノ戸主、父母、其ノ他民法上同意ヲ要スル者

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第十一章 海軍禮砲令

一、皇禮砲ヲ行フ場合左ノ如シ

イ、天皇、皇后、太皇太后、皇太后ニ對シ行フ

ロ、右以外ノ皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限り行フ

ハ、天皇旗、皇后旗、皇太子旗、皇族旗ニ對シ行フ

ニ、紀元節、天長節、明治節、其ノ他特令アル祝日等ノ正午ニ行フ

皇禮砲ノ數ハ二十一發トス

二、海軍武官ニ對シ行フ禮砲ハ左ノ如シ

イ、海軍大臣、軍令部總長、特命檢閲使、海軍大將ニ對シ 十七發

ロ、海軍中將ニ對シ 十五發

ハ、海軍少將ニ對シ 十三發

ニ、司令官タル海軍大佐ニ對シ

十一發

三、尙其^{ナホ}ノ他ノ帝國文武官及外國ノ元首^{ゲシシユ}、皇族^{クワツンク}竝ニ其ノ他ノ文武官ニ對シ禮砲ヲ

行フコトアリ

第十二章 海軍旗章令

一、海軍旗章ハ左ノ如シ (第十一圖)

(一) 天皇 皇 旗 天皇乘御ノトキ艦船又ハ短艇ニ之ヲ掲揚シ短艇ニ於テハ艇首ノ旗竿ニ之ヲ揚グ

天皇乘御ノ艦船ニ於テハ日没ヨリ日出迄後方檣樵ノ桁後面ニ五箇ノ白燈ヲ揚グ

(二) 太皇太后旗、皇太后旗、皇后旗
 (三) 攝政旗
 (四) 皇太子旗、皇太孫旗
 (五) 皇太子妃旗、皇太孫妃旗
 (六) 親王妃、親王妃旗、内親王妃

(二) 及(四)乃至(六)ヲ總稱シテ皇族旗ト謂フ。
 (二) 乃至(六)ノ掲揚法ハ(一)ニ準ズ
 但シ(四)乃至(六)ハ公式ノ場合ノミトス。夜間ハ白燈四個(三)ノ場合ハ五個)ヲ後方

王旗、王妃旗、女王旗

一 檣桁後面ニ掲グ

(七)

海軍大臣旗

海軍大臣公式ニ艦船又ハ短艇ニ乗リタル時之ヲ掲揚ス夜間ハ

白燈三箇ヲ後方檣ノ桁後面ニ掲グ

(八)

大將

旗

(八)
(九)

ハ之ヲ總稱シテ

將旗ト謂フ。

將旗ハ指揮權ヲ有ス

(九)

中將

旗

ル海軍大將、海軍中將又ハ海軍少將ノ旗章トス

(十)

少將

旗

一、海上勤務ノ司令長官、司令官

其ノ軍艦ニ掲揚ス夜間大將ニハ三箇、中將ニハ二箇、

少將ニハ一箇ノ白燈ヲ後方檣ノ桁後面ニ掲グ

二、陸上勤務ノ司令長官、司令官其ノ廳ニ掲揚ス

司令官タル海軍大佐ノ旗章ニシテ掲揚ハ少將旗ニ準ズ。

夜間ニハ一箇ノ白燈ヲ後方檣樓ノ後部ニ掲グ

(二)

代

將

旗

司令官タル

海軍大佐ノ旗章ニシテ

掲揚ハ少將旗ニ準ズ。

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十二章 海軍旗章令	(七) 艦 ^{クニ} 首 ^{ウラ} 旗 ^{ハタ} 軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇、特務艦碇泊中艦首ノ旗	(六)(五) 軍 ^{イクサ} 國 ^{クニ} 艦 ^{クニ} 旗 ^{ハタ} 旗 ^{ハタ} 艦艇及特務艦ノ後部旗竿又ハ斜桁ニ掲揚ス <small>(陸上部隊學校航空隊等ニ在リテハ祝祭日記 念日等ニ限り官衙旗竿ニ掲揚スルコトヲ得)</small>	(四) 先 ^マ 任 ^ニ 旗 ^{ハタ} 二隻以上ノ艦船軍港、要港以外ニ碇泊ノトキ首席指揮官ノ乘艦艇ヲ示ス旗章 <small>(前方橋右舷桁端ニ之ヲ掲揚ス)</small>	(三) 司 ^シ 令 ^{レイ} 旗 ^{ハタ} 驅逐艦、司令潜水艦、司令水雷艇又ハ司令掃海艇ニ之ヲ掲揚ス。夜間ハ白燈一箇ヲ大櫓桁端ニ掲グ	(三) 長 ^{チヤウ} 旗 ^{ハタ} 艦船ヲ指揮スル將校ノ旗章トシ艦船ニ之ヲ掲揚ス 但シ特務艇、雜役船ニ在リテハ軍港又ハ要港以外ニ行動スル場合ニ限り掲揚スルモノトス
---------------	---	---	---	---	---

竿ニ掲揚ス

(六) 軍用船旗 海軍軍人ノ指揮セザル特設艦船ノ大櫓頂ニ之ヲ掲揚ス

(元) 當直旗 碇泊中當直艦艇ヲ示ス旗章(前櫓左舷桁端ニ之ヲ掲揚ス)

(三) 赤十字旗 戦時又ハ事變ノ際海軍病院及病院船若ハ治療所等ニ掲グ

(三) 測量艇旗 水路測量ニ従事スル船艇(小蒸汽船、短舟ヲ除ク)ニ掲揚ス(第十一圖)

備考 特定ノ場合ヲ除クノ外天皇旗以下司令旗迄ノ旗章ハ總テ大櫓上ニ掲揚

ス

二、満艦飾ハ軍艦、驅逐艦、水雷艇、掃海艇又ハ特務艦、艦飾ハ艦艇又ハ特務艦

碇泊中ニ之ヲ行フ

満艦飾ハ紀元節、天長節、明治節及天皇又ハ皇族ニ對シ皇禮砲ヲ行フベキ日其

ノ他特ニ海軍大臣ノ定ムルトキニ行ヒ、各櫓頂ニ互リ艦首ヨリ艦尾ニ信號旗ヲ

連揚シ各櫓頂ニ軍艦旗ヲ掲グルモノニシテ、艦飾ハ單ニ各櫓頂ニ軍艦旗ヲ掲揚

HP「海軍砲術学校」公開史料

スルモノトス

三、電燈艦飾ハ國家ノ大典、觀艦式其ノ他ノ場合ニ海軍大臣ノ特令ニヨリ軍艦碇

泊中夜間之ヲ行フ

四、記念軍艦旗ハ軍艦ガ敵艦隊ト合戦ノ際使用セシ軍艦旗（一戰役ニ就キ一旆）

ニシテ其ノ經歷寸法ヲ詳記シ記念ノタメ保存セルモノニテ戰役記念日及戰死者

ノ祭典等ニ際シ之ヲ掲揚シ又ハ祭壇ニ飾リ尙ホ後來戰闘ノ際ニモ成ルベク之ヲ

掲揚スルモノトス

五、特命檢閲使其ノ檢閲艦船部隊等ノ所在地ニ在ルトキ又司令長官、司令官ニ非

ザル大演習、小演習ノ統監其ノ演習艦船部隊ノ所在地ニ在ルトキハ海上勤務ノ

司令長官、司令官ニ準ジ乗用ニ充テラレタル軍艦ニ特ニ將旗ヲ掲揚スルコトヲ

得

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第十三章 海軍下士官兵ノ服役ニ關スル規程

一、下士官兵ノ服役ハ現役、豫備役、後備兵役トス

豫備役ハ現役ヲ終リタル者之ニ服シ、後備兵役ハ豫備役ヲ終リタル者別ニ命ナクシテ之ニ服ス

後備兵役ヲ終リタル者ニシテ年齢四十年未滿ノ者ハ滿四十年迄第一國民兵役ニ服ス

(附説) 帝國臣民タル男子ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄兵役ニ服ス。兵役ハ之ヲ常備兵役(現役、豫備役)、後備兵役、補充兵役(第一、第二)及國民兵役(第一、第二)ニ分ツ

六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ得ズ

二、下士官兵兵役期間

考 備	後 備 兵 役	豫 備 役	現 役	下 士 官		
				志 願 兵	兵	徵 兵
現役ヲ退ク際、講休中、服役延期中又ハ現役ヲ退キタル後下士官ニ任用セラレタル者ノ豫備役、後備兵役ノ服役期間ハ兵ノモノニ同ジ	三 年	四 年	六 年	五 年	五 年	三 年
徴兵ノ入團ハ毎年一月十日、六月三十日ナルモ、之ガ現役編入開始期ハ總テ十二月一日、六月一日トス	六 年	五 年	六 年	七 年	七 年	七 年

三、現役下士官兵ハ第二號ノ現役期間滿ツルモ引續キ數次再現役ヲ志願スルコトヲ得

四、再現役ハ二箇年ヲ一期トス。再現役ヲ志願スル者ハ現役滿期五箇月前ヨリ三十日以内ニ所轄長ヲ經テ在籍鎮守府司令長官ニ願出ゾベシ

HP「海軍砲術学校」公開史料

五、海軍特修兵令ニヨリ服役ノ義務アルモノハ再現役ノ手續ヲ爲サズシテ其ノ義務ノ終ル迄ヲ一期トシ當然再現役ニ入りタルモノト看做ス

六、懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ受ケタル日數及逃亡中ノ日數ハ現役期間ニ算入セズ

下士官ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノハ其ノ官ヲ失ヒ當該兵種ノ一等兵トナス。但シ海軍刑法又ハ陸軍刑法ニヨリ一年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノニハ之ヲ適用セズ

官ヲ失シ一等兵トナルモノノ服役期間ハ下士官トシテ服役シタル現役期間ヲ通算スルモノトス

七、現役中戸籍ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ戸主ヨリ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ屈出ヅベシ(本人ニ關スル家ノ變更ノ場合ニ在リテハ戸籍抄本ヲ添附スベシ)
但シ本人戸主ナルトキハ家事ヲ擔當スルモノ之ヲ行フ

八、現役中本人ニ依ルニ非レバ家族ガ生活ヲ爲スコト能ハザルニ至リタルトキハ

現役ヲ免除ス。但シ故意ニ其ノ事故ヲ作爲シタル時ハ此ノ限ニ非ズ

前項ノ規定ニ依リ現役免除ヲ願出デントスル者ハ實狀ヲ具シ市町村長ノ證明書

ヲ添ヘ所轄長ヲ經テ在籍鎮守府司令長官宛ニ願出ツベシ

九、左ニ掲グル特修兵ハ五月一日ヨリ十月末日迄ノ間ニ卒業ノ者ニ在リテハ五月

一日ヨリ、十一月一日ヨリ翌年四月末日迄ノ間ニ卒業ノ者ニ在リテハ十一月一

日ヨリ起算シ左記期間現役ニ服スルノ義務ヲ有ス

普通科(經理術、衣糧術)練習生教程

高等科(砲術、測的術、水雷術、信號術、電信術、運用術

(操舵)、運用術(應急)、整備術、航空兵器術、機關術、

電機術、工作術、看護術、經理術、衣糧術)練習生教程

特修科航空術練習生教程

ヲ卒業シ
タルモノ三年

HP「海軍砲術学校」公開史料

〔特修科工作術練習生教程〕

普通科（砲術、測的術、水雷術、（魚雷、機雷）運用術

航空兵器術、整備術、機關術、電機術）練習生教程

飛行練習生教程

偵察練習生教程

操縦練習生教程

特修科軍樂術練習生教程

ヲ卒業シ
タルモノ
四年

第十四章 海軍武官兵任用進級諸令規則

第一節 海軍兵進級規則拔萃

一、海軍兵ノ進級ハ級ヲ逐ヒ職階ヲ歷進セシム

二、四等兵ハ海軍四等兵教育規則ニ定ムル教程ヲ終リタルトキ三等兵ニ進級セシム

ム

三、二等兵及三等兵ハ進級ニ必要ナル實役停年以上ノ者ニシテ進級試験ニ合格シタルモノニ非ザレバ進級セシムルコトヲ得ズ

戰時又ハ事變ノ際ハ進級試験ニ依ラズ進級セシムルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ海軍大臣之ヲ告達ス

四、二等兵及三等兵ノ進級ニ必要ナル實役停年ヲ八月トス。

HP「海軍砲術学校」公開史料

甲種飛行豫科練習生タル航空兵

修業一ヶ月経過時
同一ヶ月半同
同一ヶ月同

二等航空兵
一等航空兵
二等航空兵

乙種豫飛行科練習生タル航空兵

修業三ヶ月経過時
一學年修業時
一學年修業時

三等航空兵
二等航空兵
一等航空兵

戦時又ハ事變ノ際ハ前項ノ停年ヲ半減スルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ海軍大臣之ヲ告達ス

五、二等兵及三等兵ノ實役停年計算期ハ二月末日及八月三十一日トシ進級期ヲ五月一日及十一月一日トス

六、實役停年ハ勤務日數ニ海上勤務日數ノ三分ノ一及海上勤務ニ非ザル航空勤務日數ノ三分ノ一ニ當ル日數ヲ加算シ之ヲ算出ス

七、海上勤務トハ艦船ニ乗組ミ服役スルヲ謂フ。航空勤務トハ航空機ニ乗ズル勤務又ハ其ノ操縦ニ關スル勤務ニ服スルヲ謂フ

八、處刑處罰又ハ逃亡中ノ日數及公務ニ因ラザル疾病ノ爲又ハ自己ノ願ニ依リ勤

務ニ服セザル間ノ日數ハ勤務日數ニ算入セズ

九、下士官兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ規定ニ拘ラズ進級セシメラル

但シ第一、第二號ハ海軍大臣之ヲ告達シタル者ニ適用ス

一、敵前ニ在リテ殊勳ヲ奏シタル者

二、戰時又ハ事變ノ際殊勳ヲ奏シタル者又ハ勳功顯著ナル者ニシテ其ノ戰時又

ハ事變中傷痕疾病ノ爲危篤ニ陥リタル者

三、拔群ナル勇敢ノ行爲アリ功績顯著ニシテ軍人ノ龜鑑トシテ海軍大臣之ヲ海

軍全般ニ布告シタル者

○第二節 海軍武官進級令及任用令拔萃

一、海軍武官ノ進級ハ級ヲ逐ヒ其ノ官階ヲ歷進セシム

二、進級ニ必要ナル實役停年左ノ如シ

HP「海軍砲術学校」公開史料

三等下士官
一年四月(飛行練習生一年)
掌航空兵一年

二等下士官
一年四月(掌航空兵一年)

一等下士官
二年四月(掌航空兵二年)

各科兵曹長
選修學生修了又ハ五年

各科特務少尉
二年

各科特務中尉
三年

(附記) 下士官ハ進級試験ニ合格シタル者ニ非ザレバ進級セシムル

コトヲ得ズ

三、三等下士官ハ一等兵ヨリ、各科特務少尉ジュンシクワンハ准士官ヨリ之ヲ任用スニシヨウ

四、三等下士官ハ下士官タラムコトヲ志願スル一等兵中一年四月ノ實役停年ジツエキテイネン

ヲ有シギリキウイワシク技術優秀ニシテ任用試験ニ合格シタル者ヨリハツテキ拔擢ニ依リ各科別ニ從カシクワベツ シタガ

ヒ任用ス(飛行豫科練習生、飛行練習生、掌航空兵ハ一年二月)

第十四章 海軍武官兵任用進級諸令規則

七六

五、各科特務少尉へ准士官中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ拔擢ニ依リ各科別ニ從ヒ之ヲ任用ス

一、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍軍醫學校又ハ海軍經理學校選修學生ノ課程ヲ修了シタル者

二、五年ノ實役停年ヲ有シ技術拔群ナル者

六、戰時事變ノ際ハ實役停年ヲ半減シ又試験ニ依ラズシテ任用進級セシムルコトヲ得

七、海軍武官ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ際特ニ之ヲ進級セシムルコトヲ得。又一等兵ヲ下士官ニ各科別ニ從ヒ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

一、敵前ニ在リテ殊勳ヲ奏シ首將之ヲ全軍ニ布告シタル者

二、戰時又ハ事變ノ際殊勳ヲ奏シタル者又ハ勳功顯著ナル者ニシテ其ノ戰時又ハ事變中傷痕又ハ疾病ノ爲危篤ニ陥リタル者

HP「海軍砲術学校」公開史料

三、拔群ナル勇敢ノ行爲アリ功績顯著ニシテ軍人ノ龜鑑トシテ海軍大臣之ヲ海軍全般ニ布告シタル者

八、特務大尉、航空特務大尉、整備特務大尉、機關特務大尉、工作特務大尉及主計特務大尉ハ特選ニ依リ各々少佐、機關少佐及主計少佐ニ之ヲ任ズルコトヲ得

○第三節 海軍准士官、下士官任用進級試験規則拔萃

一、任用進級試験ハ任用進級ニ必要ナル實役停年ヲ超エタル一等下士官以下

三等兵ニ就キ施行ス

二、任用進級試験ハ一等下士官ニ在リテハ九月、二等下士官以下三等兵ニ在リテハ三月及九月ニ於テ施行ス

三、任用進級試験ハ主トシテ實地ニ就キ施行ス

四、一等下士官及一等兵ニ在リテハ普通學ノ試験ヲモ施行ス

第十五章 海軍下士官兵善行章令施行細則

一、海軍下士官兵ニハ其ノ勤務ノ狀況又ハ特別ノ行爲ニ應ジ善行章ヲ附與ス
善行章ハ之ヲ普通善行章及特別善行章ニ區分ス

二、普通善行章ハ品行方正勤務精勵ナル者ニ附與ス

三、特別善行章ハ特ニ勇敢若ハ奇特ノ行爲アリ又ハ拔群ノ勤務ヲ爲シ衆人ノ模範ト爲ルベキ者ニ之ヲ附與ス

四、海軍下士官兵初メテ入團又ハ入隊シタル日又ハ普通善行章ヲ附與セラレタル日ヨリ三年以上品行方正勤務精勵ナルトキハ之ニ普通善行章一線ヲ附與ス
海軍兵初メテ入團ノ日ヨリ三年未滿ニシテ滿期退團ノ際除算日數ナキモノニ在リテハ前項ノ期間ヲ二年十月ニ短縮スルコトヲ得。但シ父母ノ病氣看護又ハ死亡ノ際往返日數ヲ除キ一回ニ三日以内ノ場合ニ在リテハ除算セザルコトヲ得

五、海軍下士官兵前記第三項ノ規定ニ該當スル者アルトキハ一回毎ニ之ニ特別善行章ヲ附與ス

特別善行章ニハ所轄長ノ名ヲ以テスル褒狀ヲ附ス

六、善行章ノ褫奪ハ左ノ各號ニ依ル

- (一) 懲罰、科料、拘留又ハ罰金ニ處セラレタルトキハ普通善行章一線ヲ褫奪ス
 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ普通善行章二線及特別善行章全部ヲ褫奪ス
 懲役ノ刑ニ處セラレタルトキハ善行章全部ヲ褫奪ス
 (二) 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ普通善行章二線ヲ褫奪ス

七、普通善行章ヲ有スル者之ヲ褫奪セラレタルトキハ褫奪ノ日ヨリ左ノ各號ノ期間品行方正勤務精勵ナルトキ之ニ普通善行章一線ヲ附與ス

- (一) 第六項ノ一及四 並ニ 第九項ノ場合

一年以上

HP「海軍砲術学校」公開史料

- (二) 第六項ノ(二)ノ場合 一年六月以上
- (三) 第六項ノ(三)ノ場合 二年以上
- 八、嘗テ普通善行章ヲ有セザル者又ハ褫奪ノ爲普通善行章ヲ有セザル者刑罰ニ處セラレタルトキハ一回毎ニ左ノ各號ニ依リ普通善行章第一線附與ニ要スル期間ヲ延長ス
- (一) 懲罰、科料、拘留又ハ罰金ニ處セラレタルトキ 一年以上
- (二) 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ 一年六月以上
- (三) 懲役ノ刑ニ處セラレタルトキ 一年以上
- (四) 禁錮又ハ懲役ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行猶豫ナルトキ 一年以上
- 九、刑罰ニ處セラレザルモ品行又ハ勤務ノ狀況ニ依リ善行章ヲ保有セシムルニ適セズト認めタルトキハ善行章ヲ褫奪スルコトヲ得
- 十、普通善行章ノ附與ハ毎月一日所轄長之ヲ行フ

第十五章 海軍下士官兵善行章令施行細則

十六、特別善行章ノ附與フハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ所轄長之ヲ行フシヨカワナキウ

第十六章

勳章、記章及戦技優等章並

優等徽章

○第一節 勳章(第九圖)

金鵝勳章

功一級ヨリ功七級迄
兵ハ功六級以下

武功拔群ナル者ニ敍賜ス

明治二十三年
(紀元二千五百
五十年)創設

大勳位菊花章

偉勳アル者ニ敍賜ス

明治十年創設

勳一等旭日桐花章

殊ニ勳功顯著ナル者ニ敍賜ス

明治二十一年創設

旭日章

勳一等ヨリ勳六等迄(旭日章)
勳七等ヨリ勳八等迄(桐葉章)
兵ハ勳八等以下

明治八年
創設

勳功顯著ナルモノニ敍賜ス

第十六章 勳章、記章及戦技優等章並優等徽章

第十六章 勳章、記章及戦技優等章並優等徽章

瑞寶章ホウホウシヤウ

勳一等ヨリ勳八等迄下士官ハ勳七等以下兵ハ勳八等

勳功又ハ積年勤勞アルモノニ敍賜ス(婦人) 明治二十一年創設

寶冠章ホウクワンシヤウ

勳一等ヨリ勳八等迄 婦人ノ勳功アル者ニ敍賜ス 明治二十一年創設

○第二節 從軍記章(第十圖)

明治二十七年從軍記章

明治三十三年從軍記章

明治三十七八年從軍記章

大正三四年從軍記章

大正三年乃至九年戰役從軍記章

昭和六年乃至九年事變從軍記章

將卒ノ別ナク勳功ノ有無ヲ論セズ戰爭又ハ事變ニ參加シタルモノニ下賜セラル
以上ノ外大正三年乃至九年戰役ノ勝利記念ノ國際表章トシテ戰捷記章アリ

○第三節 優等章及優等徽章(第十圖)

一、優等章ハ各種檢定ニ於テ優等ノ成績ヲ得タル者ニ授與セラル。其ノ種類、檢

HP「海軍砲術学校」公開史料

定及授與サルベキ者左ノ如シ

見張優等章	通信優等章	機雷敷設優等章	魚雷發射優等章	艦砲射擊優等章	優等章ノ種類
見張、氣象	掌信號兵、掌電信兵 暗號員	敷設、掃海、投射、 設置、水中測的(潜水艦ヲ除ク)、 探知員、管制員	發射、水中測的(潜水艦)、 聽音員、探知員	操砲、給彈藥、測的、 照射、幹部附、 電路員、聽測	海軍檢定
見張員、氣象員	掌信號兵、掌電信兵 暗號員	裝備長、掃海長、 網長及一番、 聽音員長、 管制員長、 防潛	射手、發射機長(聯裝又ハ之ニ準ズル發射機ノ一番)、 水中聽音機長、 探信儀長	砲員長、射手、 長、彈藥庫長、 旋回手、彈藥庫長、 手、管制器長、 探照燈長、 測的盤、 變距 率、旋回手、 手、旋回手、 動搖修整手、 射擊盤長、 電 路員長、 聽測員長	授與スベキ者

第十六章 勳章、記章及戰技優等章並優等徽章

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十六章 勳章、記章及戦技優等章並優等徽章

操舵優等章	操舵	操舵員全員
應急優等章	應急幹部附、應急員、注排水員	應急幹部附應急員タル下士官（兼務者ヲ除ク）
航空優等章	航空（飛行、整備、兵器）	飛行員タル下士官兵、艦船ノ兵器員、飛行機員、發着機員、飛行機ノ計器整備員、タル各下士官、航空隊ノ飛行機員、搭乗發動機員、兵器員、機體發動機計器整備員タル各下士官、工業部下士官、金工員、木工員タル下士官、偵察員、雷撃員
機關運轉優等章	機械部、縮部、電機部、補機部、運轉幹部附	機械部、縮部、電機部、補機部各下士官、運轉幹部附（通信傳令員ヲ除ク）
工作優等章	工業部下士官、金工員、木工員	航空隊以外ノ工業部下士官

二、^{イウトウキョシヤ}優等徽章ハ最近五ケ年以内ニ於テ三回同一檢定^{ケンテイ}ニ參加シ毎回優等章ヲ得^ヱタル者ニ授與セラル^{ジユヨ}

HP「海軍砲術学校」公開史料

- 三、小銃射撃優等章（小銃檢定射撃ニ於テ得點五十點以上ノ者ニ附與ス）
- 四、潜水學校練習生修業徽章（潜水學校練習生教程ヲ卒業シタル者ニ附與ス）
- 五、右ノ外元帥徽章、侍從武官長徽章、侍從武官徽章、軍人傷痕記章等アリ

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第十七章 海軍諸學校及練習生ニ關スル規則

(一) 海軍大學校

海軍大學校ハ東京ニ在リテ海軍兵科將校、機關科將校及將校相當官ニ必要ナル高等ノ學術ヲ教授スル所トス

(二) 海軍兵學校

海軍兵學校ハ廣島縣江田島ニ在リテ海軍兵科將校ト爲スベキ生徒ヲ教育シ又海軍兵曹長及海軍一等兵曹ニ對シ將來尉官ニ準ズル勤務ニ服スベキ者ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施ス所トス

(三) 海軍砲術學校

海軍砲術學校ハ横須賀ニ在リテ海軍兵科將校、特務士官、准士官及海軍特修兵タルベキ下士官兵ニ砲術ヲ教授スル所ニシテ練習生ヲ左ノ五種ニ區別ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十七章 海軍諸學校及練習生ニ關スル規則

九〇

一、普通科砲術練習生

二、高等科砲術練習生

三、特修科砲術練習生

四、普通科測的術練習生

五、高等科測的術練習生

練習生選拔資格

普通科砲術練習生（修業期間六箇月乃至七箇月）

普通科測的術練習生（右）

（同）

一、海軍一、二等水兵又ハ進級停年ヲ有スル三等水兵

二、規定ノ體格検査ニ合格シタルモノ

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキモノ

四、掌砲兵又ハ掌測的兵ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

HP「海軍砲術学校」公開史料

五、海軍特修兵トウシュウヘイニ非ザル者

高等科各練習生ハ各其ノ普通科フツウカ教程ヲ卒業シタル者ヨリ選抜シ、特修科砲術練習生ハ高等科砲術教程ヲ卒業シタル者ヨリ選抜ス

(四) 海軍水雷學校スイライ

海軍水雷學校ハ横須賀ニ在リテ海軍兵科將校シヤウカウ、特務士官トクム、准士官ジュン及海軍特修兵タルベキ下士官ニ水雷術ヲ教授スル所ニシテ練習生ヲ左ノ六種ニ區別ス

一、普通科水雷術魚雷練習生

二、普通科水雷術機雷練習生

三、普通科水雷術水中測の練習生

四、高等科水雷術魚雷練習生

五、高等科水雷術機雷練習生

六、高等科水雷術水中測の練習生

練習生^{レンシウセイ}選抜資格

普通科水雷術^{スイライジエツ}魚雷練習生（修業期間七箇月）

普通科水雷術^{スイライ}機雷練習生（同） 右）

一、海軍一、二等水兵又ハ進級停年ヲ有スル三等水兵

二、規定ノ體格検査ニ合格シタルモノ

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

四、掌水雷兵ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

五、海軍特修兵ニ非ザル者

普通科^{フツウカク}水雷術水中測的練習生

新兵^{ニユウジン}入團中選抜試験ニ合格シ海兵團ニ於テ^{シヨテイ}所定ノ教育ヲ受ケタル者

高等科各練習生ハ各其ノ普通科^{フツウカク}教程ヲ卒業シタル者ヨリ^{センバツ}選抜ス

(五) 海軍通信學校

HP「海軍砲術学校」公開史料

海軍通信學校ハ神奈川縣久里濱ニ在リテ海軍兵科將校、特務士官、准士官及海軍
特修兵タルベキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル通信術ヲ教授スル所ニシテ練習
生ヲ左ノ二種ニ區別ス

一、普通科電信術練習生

二、高等科電信術練習生

練習生選抜資格

普通科電信術練習生（修業期間二箇年以内）

本練習生ニハ海軍志願兵令第二十六條ニ依ル掌電信兵志願ノ水兵、偵察術練習生

志願ノ航空兵及徴兵中選抜試験ニ合格シタル者ニシテ海兵團ニ於テ規定ノ教育ヲ

修了シタルモノヲ採用ス

（備考）（志願兵令第二十六條）志願兵ノ徵募ハ採用ノ年ノ十二月一日ニ於テ年

齡十七年以上二十一年未滿ノ者ニ就キ之ヲ行フ、但シ掌電信兵タルコトヲ志

願スル水兵ニ在リテハ十五年以上十九年未滿、軍樂兵ニ在リテハ十六年以上二十年未滿トス

(六) 海軍機關學校

海軍機關學校ハ東舞鶴ニ在リテ海軍機關科將校ト爲スベキ生徒ヲ教育シ又機關科及工作科ノ准士官及一等下士官ニ對シ將來尉官ニ準ズル勤務ニ服スベキ者ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施ス所トス

(七) 海軍工機學校

海軍工機學校ハ横須賀ニ在リテ海軍機關科將校、機關科及工作科特務士官、准士官及海軍特修~~ル~~ルベキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル機關術及工作術ヲ教授スル所ニシテ練習生ヲ左ノ七種ニ區分ス

一、普通科機關術練習生

二、高等科機關術練習生

HP「海軍砲術学校」公開史料

三、普通科電機デンキ術練習生

四、高等科電機術練習生

五、普通科工作術コウサク練習生

六、高等科工作術練習生

七、特修科工作術練習生

練習生選抜資格レンシウセイ
シカク

普通科機關術練習生（修業期間六箇月）シユウゲフキカン

普通科電機デンキ術練習生（修業期間六箇月）デンキシユツ

一、海軍一、二等機關兵又ハ進級停年ヲ有スル三等機關兵

二、規定ノ身體検査ニ合格ガウカクシタルモノ

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者シヨ

四、掌機兵又ハ掌電機兵ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者ミト

五、海軍特修兵ニ非ザル者

普通科工作術練習生(修業期間一箇年)

工作兵ニシテ海兵團ニ於テ所定ノ教育ヲ修了シタル者ヲ採用ス

高等科各練習生ハ各其ノ普通科教程ヲ卒業シタル者ヨリ選抜シ特修科工作術練習生ハ高等科工作術練習生教程ヲ卒業シタル者ヨリ選抜ス

(八) 海軍軍醫學校

海軍軍醫學校ハ東京ニ在リテ海軍軍醫科士官及海軍藥劑科士官ニ必要ナル學術ヲ教授シ兼テ職務ヲ練習セシメ海軍看護兵曹長ニ對シ看護科特務士官ノ素養ニ必要ナル教育ヲ施ス所トス

(九) 海軍經理學校

海軍經理學校ハ東京ニ在リテ海軍主計科士官ト爲スベキ生徒ヲ教育シ海軍主計兵曹長及海軍一等主計兵曹ニ對シ將來尉官ニ準ズル勤務ニ服スベキ者ノ素養ニ必要

HP「海軍砲術学校」公開史料

ナル教育ヲ施シ、海軍主計科士官及主計少尉候補生ニ對シ之ニ必要ナル學術ヲ教授シ兼テ之ヲシテ職務ヲ練習セシメ、海軍特修兵タルベキ海軍下士官兵ニ對シ之ニ必要ナル學術ヲ教授スル所ニシテ練習生ヲ左ノ四種ニ區分ス

一、普通科經理術練習生

二、高等科經理術練習生

三、普通科衣糧術練習生

四、高等科衣糧術練習生

練習生選抜資格

普通科經理術練習生（修業期間六箇月以内）

一、海軍一、二、三等兵タルコト

二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第十七章 海軍諸學校及練習生ニ關スル規則

九七

四、掌經理兵タルニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

五、海軍特修兵ニ非ザル者

普通科衣糧術練習生（修業期間六箇月）

一、海軍一、二、三等主計兵タルコト

二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

四、衣糧術特修兵トナスニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

高等科各練習生ハ各其ノ普通科ヲ卒業シタル者ヨリ選拔ス

(十) 海軍航海學校

海軍航海學校ハ横須賀ニ在リテ海軍兵科將校、特務士官及准士官並ニ海軍特修兵タルベキ下士官兵ニ航海術、運用術、信號術、見張術及氣象術ヲ教授スル所ニシテ練習生ヲ左ノ六種ニ區別ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

- 一、普通科運用術操舵練習生
 - 二、普通科運用術應急練習生
 - 三、普通科信號術練習生
 - 四、高等科運用術操舵練習生
 - 五、高等科運用術應急練習生
 - 六、高等科信號術練習生
- 練習生選抜資格
センバウシシカク

普通科運用術練習生（修業期間六箇月）
シユウギョクフキヤクシ

- 一、海軍一、二等水兵タルコト
- 二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者
キョウテイ オフカク
- 三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
キンゴ ショ
- 四、掌帆兵ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

五、海軍特修兵ニアラザル者

普通科信號術練習生（修業期間八箇月）

一、新兵入團中選抜試験ニ合格シ海兵團ニ於テ所定ノ教育ヲ受ケタルモノ

二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

四、稟性鋭敏活潑ニシテ理解力ニ富ミ言語明瞭ナル者

五、尋常小學校卒業程度ノ學力アル者

高等科各練習生ハ各其ノ普通科教程ヲ卒業シタル者ヨリ選拔ス

(土) 海兵團練習部

海兵團ハ各鎮守府所在地ニ在リ其ノ練習部ニ於テ海軍四等兵ノ教育ヲ掌リ必要

ニ應ジ海軍特修兵タルベキ海軍下士官兵ニ特殊ノ技術ヲ修得セシムベキ海軍兵、

海軍豫備員候補者ヲ教育ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

練習部ニ於テ教育スル海軍四等兵ヲ新兵シニベイ、海軍特修兵タルベキ海軍下士官兵ヲ練習生、其ノ他ノ兵ヲ補習生カシラセイト稱ス

練習生、補習生左ノ如シ

一、軍樂術補習生ゴウガクジュツ（横團ノミ）

二、特修科軍樂術練習生トクシユウ（横團ノミ）

三、兵科及機關科豫備練習生

四、兵科、機關科豫備補習生

五、工作科豫備補習生コウサクシヨウ

練習生、補習生選抜資格

軍樂術補習生シユウケツ（修業期間一箇年）

一新ニ進級シタル海軍三等軍樂兵ニ就キ海兵團長カイヘイダシチヤウ之ヲ命ズ

特修科軍樂術練習生シユウケツフキカン（修業期間一箇年）

一、海軍二、三等軍樂兵曹又ハ海軍一、二等軍樂兵タルコト

二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

四、技術秀逸且音楽上ノ理論ヲ修ムルニ適當ニシテ將來管樂、絃樂ノ教員ニ充

テ又ハ各種奏樂指揮ヲ執ラシムルニ適スト認ムル者

(三) 海軍練習航空隊

海軍航空隊ニシテ海軍練習航空隊ニ指定セラレタルモノハ海軍士官、特務士官、准士官及海軍特修兵タルベキ海軍下士官兵ニ對シ航空術ヲ教授シ且航空ニ關スル事項實驗竝ニ調査ヲ行フ。練習生ヲ左ノ十種トス

一、甲種飛行練習生

二、乙種飛行練習生

三、操縦練習生

HP「海軍砲術学校」公開史料

四、偵察練習生

五、特修科航空術練習生

六、普通科航空兵器術練習生

七、高等科航空兵器術練習生

八、普通科整備術練習生

九、高等科整備術練習生

十、整備科豫備練習生

附、練習航空隊ハ霞ヶ浦、横須賀、鹿島、筑波、鈴鹿、岩國海軍航空隊等
ナリ

右ノ内第一號乃至第二號ニ掲グル練習生ヲ飛行練習生、第三號乃至第五號ニ掲グル練習生ヲ航空練習生ト總稱ス

練習生選抜資格

第十七章 海軍諸學校及練習生ニ關スル規則

一〇三

一、飛行練習生（修業期間一箇年）

飛行練習生ニハ左ノ各號ノ一ヲ專修セシム
ヒカウレンシワセイ

一、操縦術

二、偵察術

飛行練習生ハ豫科練習生教程ヲ卒業シタル航空兵ニシテ艦務實習ヲ終了シタル
ソフダク カシムジツシヤ

者

二、操縦練習生（修業期間十箇月）

偵察練習生（修業期間九箇月）

一、海軍下士官兵タルコト

二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
キンコウイジヤウ

四、年齢二十二年以下ノ者但シ偵察練習生及飛行練習生タルベキ者ハ二十四年
ネシレイ ヒカウレンシワセイ

以下トス

五、航空機搭乗者トシテ適當ナル性能ヲ有スト認ムル者

六、豫科練習生教程卒業ニアラザル者

(附) 航空豫科練習生(修業期間三箇年)

新ニ海軍航空兵ニ採用セラレタル者ニシテ修了者ハ海軍一等航空兵トナリ

續イテ飛行練習生トナル

七、高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スト認ムル者

三、特修科航空術練習生ハ進級停年ヲ有スル海軍一等航空兵以上ニシテ左ノ各號

ニ該當スル者ヨリ之ヲ選拔ス

一、品行方正ナルモノ

二、航空術ニ關スル要務ヲ執ラシムルニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

三、操縦練習生又ハ偵察練習生教程ヲ卒業シタル日ヨリ二年以上航空機搭乗ノ

配置ニ在リ其ノ特技章ヲ有スル者

四、普通科整備術練習生（修業期間一箇年）

普通科航空兵器術練習生（修業期間八箇月）

一、任用實役停年ヲ有セザル海軍一等航空兵及海軍二、三等航空兵

（附）當分ノ間任用實役停年ヲ有セザル海軍一等水兵、海軍一等機關兵及海

軍二、三等水兵、海軍二、三等機關兵

二、規定ノ體格検査ニ合格シタルモノ

三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

四、航空兵器ノ整備取扱者トシテ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

五、海軍特修兵ニ非ザル者

普通科兵器術練習生ニハ攻鑿兵器整備術、寫眞兵器整備術ノ何レカヲ專修セシム

（三）海軍潜水學校

HP「海軍砲術学校」公開史料

海軍潜水學校ハ吳ニ在リテ海軍將校、兵科及機關科特務士官、准士官、海軍下士官兵ヲシテ潜水艦ニ關スル須要ナル實務ヲ練習セシメ又之ニ對シ潜水艦ニ關スル學術ヲ教授シ且其ノ進歩ヲ圖ル所ニシテ練習生ヲ左ノ四種ニ區分ス

一、潜航術掌水雷（魚雷）練習生

二、潜航術掌水雷（機雷）練習生

三、潜航術掌機練習生

四、潜航術掌電機練習生

練習生選抜資格

水雷術、機關術（内火機械）又ハ電機術特修兵タル者ニシテ左ノ各號ニ該當スル者ヨリ之ヲ選抜ス

一、品行方正實務ノ成績優等ニシテ潜水艦乘員ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十七章 海軍諸學校及練習生ニ關スル規則

一〇八

一、潜水學校卒業ノ日ヨリ起算シ滿一年六箇月以上現役年限ヲ有スル者ハ又現

役年限滿期一年六箇月以上ヲ有セザルモ現役滿期ノ際再服役ヲ志願スルコト

ヲ豫メ誓約スル者

(六) 海軍病院練習部

鎮守府所在地ニ在ル海軍病院ニハ練習部ヲ設ケラレ其ノ練習部ニ於テハ看護術ヲ教授ス。練習生ヲ左ノ二種トス

一、普通科看護術練習生

二、高等科看護術練習生

練習生選抜資格

普通科看護術練習生(修業期間九箇月以内)

一、海軍一、二、三等看護兵

二、規定ノ體格検査ニ合格シタル者

HP「海軍砲術学校」公開史料

- 三、品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
 - 四、看護術特修兵ト爲スニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者
- 高等科看護術練習生ハ普通科教程ヲ卒業シタル者ヨリ選拔ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第十八章 職員

第一節 艦隊、鎮守府及要港部職員

司令長官 海軍大將又ハ海軍中將ニシテ艦隊又ハ鎮守府ニ於ケル最高指揮者ナリ

司令官 海軍中將、海軍少將又ハ海軍大佐ニシテ要港部、艦隊又ハ獨立艦隊ニ於ケル最高指揮官ニシテ艦隊司令官ハ司令長官ノ命ヲ承ケ艦隊ヲ指揮ス

參謀長 司令長官又ハ司令官ヲ佐ケ幕僚事務ヲ整理スル兵科將校ナリ
 參謀 司令官又ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務スル兵科又ハ機關科將校ナリ
 副官 司令官又ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務スル兵科將校ナリ
 人事 司令長官ノ命ヲ承ケ服務スル兵科將校ナリ (鎮守府ノミニ限ク)

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十八章 職員

一一二

機^キ關^{クワン} 長^{チヤウ} 司令長官又ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務スル機關科將校ナリ

軍^{ジュン}醫^イ 長^{チヤウ} 司令長官又ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務スル軍醫科士官ナリ

主^{シュ}計^{ケイ} 長^{チヤウ} 司令長官又ハ司令官ノ命ヲ承ケ服務スル主計科士官ナリ

法^{ホフ}務^ム 長^{チヤウ} 司令長官ノ命ヲ承ケ服務スル法務官ナリ(鎮守府ノミニ限ク)

文^{ブン}庫^コ主^{シュ}管^{クワン} 司令長官ノ命ヲ承ケ圖書ニ關スルコトヲ掌ル兵科將校ナリ

(鎮守府ノミニ限ク)

(註) 司令長官又ハ司令官ニ直屬スル諸職員ヲ幕僚ト稱スチヤウクツク

第二節 艦船ノ職員

長^{チヤウ} 一艦ノ首腦ニシテ艦務ヲ總括スル兵科將校ナリ

長^{チヤウ} 艦長ヲ補佐スル兵科將校ナリ

長^{チヤウ} 航海科員ヲ監督シ航海、信號及見張等ニ關スルコトヲ擔任スル

兵科將校ナリ

HP「海軍砲術学校」公開史料

砲術科員ヲ監督シ砲、彈藥及電氣器具等砲術ニ關スルコトヲ擔	長	砲術科員ヲ監督シ砲、彈藥及電氣器具等砲術ニ關スルコトヲ擔	任スル兵科將校ナリ	水雷科員ヲ監督シ水雷ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	長	水雷科員ヲ監督シ水雷ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	通信科員ヲ監督シ電信ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	長	通信科員ヲ監督シ電信ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	運用科員ヲ監督シ運用ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	長	運用科員ヲ監督シ運用ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	飛行科員ヲ監督シ飛行ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	長	飛行科員ヲ監督シ飛行ニ關スルコトヲ擔任スル兵科將校ナリ	航空機ノ整備ニ關スルコトヲ擔任スル機關科將校ナリ	長	航空機ノ整備ニ關スルコトヲ擔任スル機關科將校ナリ	機關科員ヲ監督シ機關、電機ニ關スルコトヲ擔任スル首席機關	長	機關科員ヲ監督シ機關、電機ニ關スルコトヲ擔任スル首席機關	科將校ナリ	科將校ナリ	工作科員ヲ監督シ工術及潜水術ニ關スルコトヲ擔任スル機關科	長	工作科員ヲ監督シ工術及潜水術ニ關スルコトヲ擔任スル機關科	將校ナリ	將校ナリ	醫務科員ヲ監督シ醫務、衛生ニ關スルコトヲ擔任スル首席軍醫	長	醫務科員ヲ監督シ醫務、衛生ニ關スルコトヲ擔任スル首席軍醫
------------------------------	---	------------------------------	-----------	-----------------------------	---	-----------------------------	-----------------------------	---	-----------------------------	-----------------------------	---	-----------------------------	-----------------------------	---	-----------------------------	--------------------------	---	--------------------------	------------------------------	---	------------------------------	-------	-------	------------------------------	---	------------------------------	------	------	------------------------------	---	------------------------------

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十八章 職員

一一四

科士官ナリ

主計長 主計科員ヲ監督シ會計、給與、庶務(副官ノ制アルモノヲ除ク)

厨業等ニ關スルコトヲ擔任スル首席主計科士官ナリ

副砲長 砲術長ノ職務中副砲ニ關スルコトヲ分擔スル兵科將校ナリ

飛行副長 飛行長ヲ補助シ其ノ命ヲ承ケ飛行隊ニ關スルコトヲ掌ル兵科將

校ナリ

分隊長 各其ノ科ニ於ケル分隊ヲ指揮統御シ人事教育訓練等分隊ニ關ス

ル一切ノ事ヲ受持ツ分隊ノ主權者ニシテ士官又ハ特務士官ナリ

艦長 艦長ノ命ヲ承ケ服務スル乗組兵科將校、特務士官又ハ准士官ナ

リ

甲板士官 艦長附、副長附ハ平常甲板士官トシテ勤務シ艦内ノ規律維持及

日課及號令ノ實行等ニ努ム

HP「海軍砲術学校」公開史料

整備士	機關長附	飛行隊士	飛行隊士	飛行隊士	運用士	通信士	水雷士	砲術士	航海士
整備長ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ分擔補助スル乗組機關科將校又ハ	機關長ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ補助スル乗組機關科將校又ハ機關科特務士官、准士官ナリ	又ハ准士官ナリ 飛行長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	飛行長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	飛行隊長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	運用長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	通信長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	水雷長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	砲術長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ	航海長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔補助スル乗組兵科將校ナリ

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十八章 職 員

一一六

機關科、整備科、特務士官、准士官ナリ

工 作 士

工作長ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ分擔補助スル乗組機關科將校又ハ機關科、工作科特務士官、准士官ナリ

衛 兵 司 令

副長ノ命ヲ承ケ衛兵副司令以下衛兵ヲ指揮シ艦内警察軍紀風紀ノ維持ニ任ズル兵科將校又ハ兵科特務士官ナリ

衛 兵 副 司 令

衛兵司令ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ分擔スル乗組兵科士官、特務士官、准士官ナリ

當 直 將 校

航海長、砲術長、水雷長、通信長、運用長、副砲長及兵科分隊長交番當直將校ノ勤務ニ服シ直接艦ノ保安ニ任ジ日常ノ艦務ヲ

處理ス

副 直 將 校

乗組兵科將校、特務士官、准士官交番副直將校トナリ當直將校ノ命ヲ承ケ職務ス

HP「海軍砲術学校」公開史料

機關科當直將校

機關科分隊長交番當直勤務ニ服シ機關ノ操縦其ノ他機關科ニ關

スル事項ヲ處理ス

機關科副直將校

乘組機關科將校、特務士官、准士官交番副直勤務ニ服シ機關科

當直將校ノ命ヲ承ケ服務ス

掌航海長

航海長ノ命ヲ承ケ航海長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ

掌ル等航海長ノ命ヲ承ケ服務スル乘組兵科特務士官又ハ准士

官ヲ謂フ

操舵長

航海長ノ命ヲ承ケ航海長主管中主トシテ操舵測量ニ關スル事務

ヲ掌ル乘組兵科特務士官又ハ准士官ナリ

掌砲術長

砲術長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ掌ル等砲術長ノ命ヲ

承ケ服務スル乘組兵科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

掌水雷長

水雷長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ掌ル等水雷長ノ命ヲ

HP「海軍砲術学校」公開史料

第十八章 職 員

一一八

掌^{シヤウ} 通^{ツウ} 信^{シン} 長

承ケ服務スル乗組兵科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

通信長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ掌ル等通信長ノ命ヲ

承ケ服務スル乗組兵科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

掌^{シヤウ} 運^{ウン} 用^{ヨウ} 長

運用長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ掌ル等運用長ノ命ヲ

承ケ服務スル乗組兵科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

掌^{シヤウ} 飛 行 長

飛行長ノ命ヲ承ケ飛行長主管ノ船體、艦裝品及兵備品等ニ關ス

ルコトヲ掌ル兵科又ハ航空科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

掌^{シヤウ} 整 備 長

整備長ノ命ヲ承ケ整備長^{シユウワン}主管ノ船體^{センタイ}、艦裝品^{ギザウヒン}及兵備品^{ヘイビヒン}ニ關スル

コトヲ掌^{ツカサド}ル整備科特務士官、機關科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

掌^{シヤウ} 機^キ 長

機關長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ掌^{ツカサド}ル等機關長ノ命

ヲ承ケ服務スル乗組機關科特務士官又ハ准士官ヲ謂フ

掌 工 作 長

工作長ノ命ヲ承ケ工作長主管ノ船體、兵備品ニ關スル事務ヲ掌

HP「海軍砲術学校」公開史料

リ金屬工業竝ニ木具工業及潜水作業ノ事ヲ掌ル工作科特務士官
又ハ准士官ヲ謂フ

掌 看 護 長 軍醫長ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ補助スル乗組看護科特務士官又ハ

准士官ヲ謂フ

掌 經 理 長 主計長ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ補助スル乗組主計科特務士官又ハ

准士官ヲ謂フ

先 任 衛 兵 伍 長 副長、當直將校、衛兵司令、甲板士官ノ命ヲ承ケ艦内ノ警察、

整頓、規律ニ關スルコトニ從事シ衛兵ヲ監督シ又下士官以下乗

組全般ニ關スル事務ヲ掌ルモノニシテ上級兵曹ヲ以テ充ツ

機 關 科 特 務 下 士 官 機 關 員 ノ コ ト ニ 關 シ 先 任 衛 兵 伍 長 ノ 職 務 ヲ 分 擔 補 助 シ 又 機 關

長、整備長、工作長其ノ他ノ命ヲ承ケ機關科下士官兵全般ニ關

スル事務ヲ掌ルモノニシテ上級機關兵曹ヲ以テ充ツ

掌 砲 長 屬 砲術長ノ指定ニヨリ掌砲長ヲ補助シ其ノ命ヲ承ケ服務スルモノ

ニシテ砲術科員中ノ兵曹ヲ以テ充ツ

掌 水 雷 長 屬 水雷長ノ指定ニ依リ掌水雷長ヲ補助シ其ノ命ヲ承ケ服務スルモ

ノニシテ水雷科員中ノ兵曹ヲ以テ充ツ

掌 運 用 長 屬 運用長ノ指定ニヨリ掌運用長ヲ補助シ其ノ命ヲ承ケ服務スルモ

ノニシテ運用科員中ノ兵曹ヲ以テ充ツ

班 長 班長タル下士官ハ其ノ班ノ儀表模範トナリ紀律ヲ維持シ之ガ一

致團結ヲ圖リ分隊長及分隊首席下士官ヲ補佐ス

第三節 海兵團、防備隊、航空隊、驅逐隊、潜水隊、水雷隊、

掃海隊等ノ職員

園 長 一海兵團ノ首腦ニシテ園務ヲ總轄スル兵科將校ナリ

HP「海軍砲術学校」公開史料

司令 各其ノ防備隊、航空隊、驅逐隊、水雷隊、潜水隊又ハ掃海隊ノ

首腦ニシテ隊務ヲ總轄スル兵科將校ナリ

驅逐艦 長 一驅逐艦ノ首腦タル兵科將校ナリ

潜水艦 長 一潜水艦ノ首腦タル兵科將校ナリ

水雷艇 長 一水雷艇ノ首腦タル兵科將校ナリ

掃海艇 長 一掃海艇ノ首腦タル兵科將校ナリ

(備考) 副長以下ノ諸職員ハ本章第二節ノモノニ準ズ

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第十九章 海軍豫備員、豫備生徒、豫備

練習生及豫備補習生

○第一節 海軍豫備員

一、海軍豫備員ノ官階クワンカイ

附表第一ノ如シ

一、海軍豫備少尉及海軍豫備機關少尉ハ東京、神戸高等商船學校卒業者ヨリ之ヲ任用シ、海軍豫備一等兵曹及海軍豫備一等機關兵曹ハ海軍豫備練習生ニシテ公私立商船學校練習科ヲ修了シタル者ヨリ之ヲ任用ス。又海軍豫備二等航空兵曹及海軍豫備三等航空兵曹ハ海軍航空隊ニ於テ所定ノ航空術ヲ修得シ海軍豫備員クラムコトヲ志願スルモノ及法令ニ定ムル航空機ニ關スル免狀ヲ有シ航空術ニ

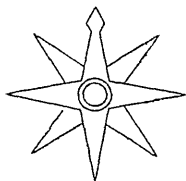
HP「海軍砲術学校」公開史料

第十九章 海軍豫備員、豫備生徒、豫備練習生及豫備補習生 一二四

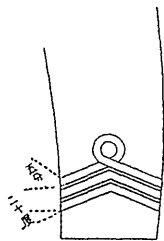
關スル海軍豫備練習生教程ヲ修了シタル年齢滿二十五歳以上ノモノヨリ之ヲ任用ス

三、海軍豫備員ノ任用又ハ進級ハ資格者ニ付銓衡ニ依リ行フ

四、海軍豫備員ハ左ノ各號ノモノノ外其ノ官階及系統ヲ同ジウスル者ト同一ノ制服ヲ用ウルコトヲ得



豫備員徽章
(徑六分)



豫備中佐袖章

一、豫備准士官以上ニアリテハ軍帽前章及夏服肩章ノ櫻花ノ代リニ豫備員徽章

HP「海軍砲術学校」公開史料

(銀色金屬)ヲ附シ正衣、禮衣及軍衣ノ袖章ヲ山形トス

二、豫備下士官ニ在リテハ軍帽前章ノ櫻花ノ代リニ豫備員徽章(銀色金屬)ヲ附シ臂章ノ櫻花ノ代リニ豫備員徽章(禮衣ニ附スルモノハ金織、軍衣及外套ニ附スルモノハ赤絨、夏衣ニ附スルモノハ紺絨)ヲ附ス

○第二節 海軍豫備生徒

一、東京、神戸高等商船學校ノ學生ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入セラレ海軍豫備生徒ト稱シ海軍生徒禮衣襟章ト同一ノ襟章ヲ附シ(固有制服襟章アルモノハ其ノ外方ニ本襟章ヲ附ス)海軍生徒ニ準ズ

二、海軍豫備生徒、海軍所定ノ識別章ヲ附シタル制服ヲ着用シタル場合ノ敬禮ハ海軍禮式令ニ據ルモノトシ、海軍生徒ニ對シテハ先ヅ敬禮ヲ行フモノトス

○第三節 海軍豫備練習生

一、海軍豫備練習生ハ航海科、機關科、航空科(甲種、乙種)、整備科ノ四種ニ區

別ス

1. 航海科、機關科

モロフシヨウナヨクカツヒレヒンガクカウ
文部省直轄商船學校（富山、鳥羽、大島、鹿兒島）生徒

當分ノ間海軍大臣ノ適當ト認メタル公私立商船學校又ハ同專修科ヲ卒業シタルモ
ノニシテ海軍豫備員ヲ志願スル者

2. 航空科 甲種 航空機ニ關スル免狀ヲ有シ年齢廿四年未滿ノモノ

同 乙種 中學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シ年齢滿二十年未

滿ノモノ

3. 整備科 工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シ年齢滿二十年

未滿ノモノ

二、航海科及機關科ノ豫備練習生ハ約六ケ月間海兵團ニ於テ軍事教育ヲ受ケシム

航空科甲種豫備練習生ハ約六ケ月、航空科乙種豫備練習生ハ約一年間、整備科

HP「海軍砲術学校」公開史料

豫備練習生ハ約一年間海軍航空隊ニ於テ軍事教育ヲ受ケシム

三、海軍豫備練習生ハ兵籍ニ編入シ其ノ身分ハ一等兵ニ準ジ、軍衣、夏衣ニハ各

同科ノ臂章ヲ右臂上部ニ附シ其ノ上ニ豫備員徽章ヲ附ス

四、海軍豫備練習生海軍所定ノ識別章ヲ附シタル制服ヲ着用シタル場合ノ敬禮ハ

海軍禮式令ニ據ルモノトシ海軍一等兵ニ對シテハ先ヅ敬禮ヲ行フモノトス

(備考)

豫備練習生ヲ志願シ得ル商船學校左ノ如シ

岡山縣立兒島商船學校

香川縣立粟島航海學校

廣島縣立商船學校

愛媛縣立弓削商船學校

北海道廳立函館商船學校

第十九章 海軍豫備員、豫備生徒、豫備練習生及豫備補習生 一二七

島根縣立商船水産學校

右ノ外朝鮮總督府遞信局海員養成所アリ

○第四節 海軍豫備補習生

一、海軍豫備補習生ハ之ヲ兵科、機關科及工作科ノ三種ニ區別ス

二、兵科及機關科豫備補習生ハ船員法ノ適用ヲ受クル船員トシテ一年以上ノ乗船

履歴ヲ有シ採用ノ年ノ十一月三十日ニ於テ年齢十七以上二十年未滿ノ者ヨリ之

ヲ採用シ其ノ採用ノ日ヨリ之ヲ海軍兵籍ニ編入ス

三、工作科豫備補習生ハ海軍工作廳ニ技術従事者トシテ引續キ二年以上勤務ノ經

歴ヲ有シ採用ノ年ノ十一月三十日ニ於テ年齢十六年以上二十年未滿ノ者ヨリ之

ヲ採用シ其ノ採用ノ日ヨリ之ヲ海軍兵籍ニ編入ス

四、兵科及機關科豫備補習生ハ約六ヶ月間、工作科豫備補習生ハ約一年間所管鎮

守府海兵團ニ於テ軍事教育ヲ受ケシム

- 五、海軍豫備補習生ノ兵籍ハ之ヲ鎮守府ニ置キ其ノ身分ハ海軍四等兵ニ準ジ其ノ臂^{ヒゲ}ニ豫備員^{あひだり}徽章ヲ附ス。但シ工作科豫備補習生ニシテ海兵團ニ入團後八ヶ月ヲ經過シタルモノハ以後其ノ身分ハ三等兵ニ準ジ海軍三等工作兵ト同一臂章（軍衣夏衣ノモノニ限ル）ヲ右臂上部ニ尙其ノ上ニ豫備員徽章ヲ附ス
- 六、海軍四等兵ニ對シテハ兵科、機關科、工作科豫備補習生ヨリ、海軍三等兵ニ對シテハ海軍豫備三等工作兵ヨリ先ヅ敬禮ヲ行フモノトス

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

第二十章 雜件

一、鎮守府警急呼集

各鎮守府定ムル所ニ依ル

二、短艇敷物識別

短艇ハ乘艇者ニ應ジ其ノ敷物ニ左記四種アリ

甲、地「黑色」 縁「黃色」 錨及波形「金色」 天皇皇族及之ニ準ズベキ貴賓用

乙、地「黑色」 縁「黃色」 錨「赤色」 將官及司令官タル大佐用

丙、地「黑色」 縁「赤色」 錨「赤色」 艦長、特務艦長、驅逐隊、水雷隊、潜水

隊、掃海隊司令、部隊長及參謀長 (將官
ニ非)

トキ) 用

丁、地「黑色」 縁「青色」 錨「赤色」 右以外ノ士官、特務士官及准士官用

HP「海軍砲術学校」公開史料

第二十章 雑 件

一三二

(註) 夜間或ハ艇覆^{テイオホヒ}使用等ニテ識別不可能ナル時ハ其ノ乗艦スベキ艦艇ノ接近^{チツキン}

シタルトキハ識別旗又ハ汽笛^{キフエ}(角)ニ依ル信號ヲナス

司令長官、司令官 短聲^{ダンセイ} 四 ————— 黄

參謀長 長聲^{チヤウセイ} 一 短聲 二 ————— 黄赤

(イロ)以外ノ將官 長聲 一 短聲 一 ————— 黄青

艦長^(艦長ニ準ズル職ヲ有スルモノ) 短聲 三 ————— 赤

副長 短聲 二 ————— 赤青

右以外ノ高等官 短聲 一 ————— 青

三、艦隊、驅逐隊、水雷隊、潜水隊、掃海隊

聯合艦隊 二隊以上ノ艦隊ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ

艦隊 二隻以上ノ軍艦又ハ之ニ驅逐艦、潜水艦等ヲ加ヘ編成セル隊ヲ謂フ

HP「海軍砲術学校」公開史料

戰隊	二隻以上ノ軍艦ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
水雷戰隊	二隊以上ノ驅逐隊ト軍艦一隻ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
潜水戰隊	二隊以上ノ潜水隊ト軍艦一隻ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
航空戰隊	二隻以上ノ航空母艦ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
驅逐隊	二隻以上ノ驅逐艦ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
水雷隊	二隻以上ノ水雷艇ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
潜水隊	二隻以上ノ潜水艦ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ
掃海隊	二隻以上ノ掃海艇ヲ以テ編成セル隊ヲ謂フ

四、檢閲

海軍檢閲ハ鎮守府、艦隊、艦團其ノ他各部ノ軍紀風紀、教育訓練、醫務、會計
服務、船體、兵器、機關等ヲ檢査閱視スルモノニシテ左ノ三種アリ

- 一、恒例檢閲
- 二、特命檢閲
- 三、臨時檢閲

五、演習

海軍演習ニ左ノ四種アリ

- 一、基本演習
- 二、小演習
- 三、大演習
- 四、特別大演習

六、觀艦式

觀艦式ニ左ノ二種アリ

- 一、大演習觀艦式
- 二、特別觀艦式

(終)

字句解釋

第四章

分^ワ擔^タ物事ヲテワケシテスルコト

庶^{シヨ}務^ム(ザツタノジム)

第五章

識^シ別^{ベツ}(見ワケ)

赤^{セキ}絨^{ジュウ}(アカキラシヤ)

携^{ヒキ}帶^{タイ}(タヅサヘモツコト)

汚^ウ染^{セン}(フケツニヨゴレタルコト)

第六章

陳^{チン}述^{ジュツ}(マウシノブルコト)

字句解釋

繼^ケ續^{ゾク}(ツヅケルコト)

遠^{エン}隔^{カク}(トホクヘダタルコト)

目^メ擊^{キキ}(チヨクセツメニテミルコト)

車^{シャ}駕^ガ(天皇ノ行幸アルトキノ御車ノコト)

第八章

劫^{キョク}掠^{リキョク}(オビヤカシカスメルコト)

擅^{セン}權^{ケン}(ケンリヨクヲホシイママニスルコト)

辱^{ジュク}職^{シヨク}(シヨクヲハヅカシムルコト)

緊^{キン}要^{ヨウ}(モツトモカンヨウナルコト)

醜^{ウイ}酖^{チン}(ハナハダシクサケニヨヒタルコト)

HP「海軍砲術学校」公開史料

字句解釋

毀^キ傷^{シヤク}(ヤブリキズツクルコト)

抗^{カウ}命^{メイ}(メイレイニハムカウコト)

脅^{ウゴ}迫^{ハク}(オドシセシムルコト)

侮^ブ辱^{ジヨウ}(アナドリハツカシムルコト)

毀^キ棄^キ(コハシステルコト)

掠^{ワキョウ}奪^{ダツ}(カスメウバフコト)

擄^ク奪^{ダツ}(トリアグルコト)

藏^{ザウ}匿^{トク}(ヒトノシラザルヤウカクシオクコト)

遣^{セン}令^{レイ}(ハウレイニタガフコト)

第九章

疎^ソ略^{リョク}(オロソカニスルコト、アラマシナ)

詐^サ偽^キ(イツハリ)

貸^{タイ}借^{シヤク}(モノヲカシカリスルコト)

漏^{ロウ}泄^{セツ}(ヒミツノコトノモレルコト又器物ナドヨリ液體ノナガレイヅルコト)

第十三章

現^{ゲン}役^{エキ}停^{テイ}限^{ゲン}年^{ネン}齡^{レイ}(現役ニ居ルコトノ出來ル最多年齡)

第十四章

殊^{シユ}勳^{コン}(オホクノ人ニスグレタルイサホシテガラ)

拔^{ダツ}擢^{テキ}(多人數ノ中ヨリヌキンデモチウルコト)

第十五章

酌^{シヤク}量^{リヤウ}(シンシヤク)

模^モ範^{ハン}(ヒトノテホントナルコト)

第十六章

拔^{ダツ}群^{クン}(タクサンノトモガラヨリマサルコト)

海軍兵須知提要終

字句解釋

拔^ハ萃^{スホ}（タクサンノナカヨリヌキアツムル）
勳^{クン}（スグレタルイサホシ）
偉^ホ勳^{クン}（イサヲテガラ）
顯^{ケン}著^{チャ}（アキラカニイテシルシキコト）
勳^{クン}勞^{ロウ}（イサヲホネラリ）

（東京・双文館印刷）

一三七

HP「海軍砲術学校」公開史料

<http://navgunschl.sakura.ne.jp/>

HP「海軍砲術学校」公開史料

附表第二

附表第二

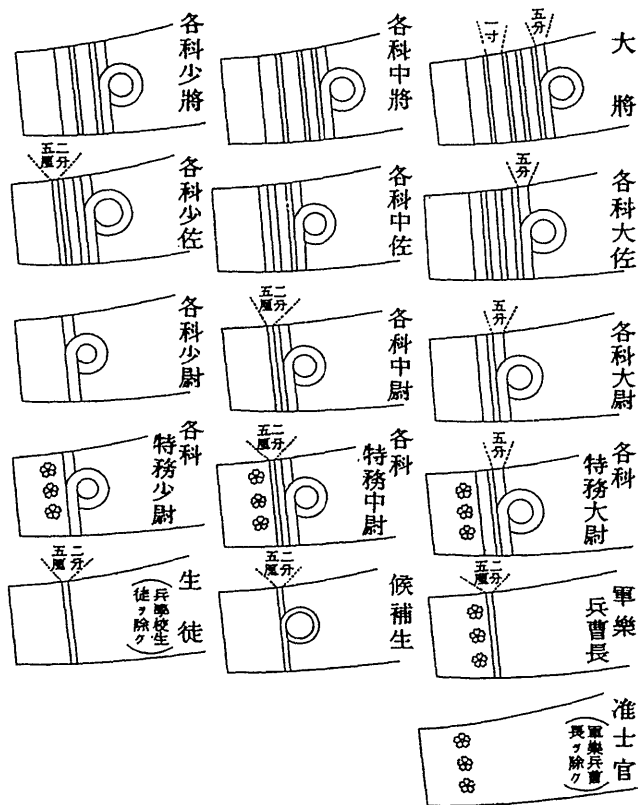
主計科	看護科	軍樂科	工作科	機關科	整備科	航空科	兵科	海軍兵職階表				
海軍一等主計兵	海軍一等看護兵	海軍一等軍樂兵	海軍一等工作兵	海軍一等機關兵	海軍一等整備兵	海軍一等航空兵	海軍一等水兵	一等兵				
海軍二等主計兵	海軍二等看護兵	海軍二等軍樂兵	海軍二等工作兵	海軍二等機關兵	海軍二等整備兵	海軍二等航空兵	海軍二等水兵	二等兵				
海軍三等主計兵	海軍三等看護兵	海軍三等軍樂兵	海軍三等工作兵	海軍三等機關兵	海軍三等整備兵	海軍三等航空兵	海軍三等水兵	三等兵				
海軍四等主計兵	海軍四等看護兵	海軍四等軍樂兵	海軍四等工作兵	海軍四等機關兵		海軍四等航空兵	海軍四等水兵	四等兵				

HP「海軍砲術学校」公開史料

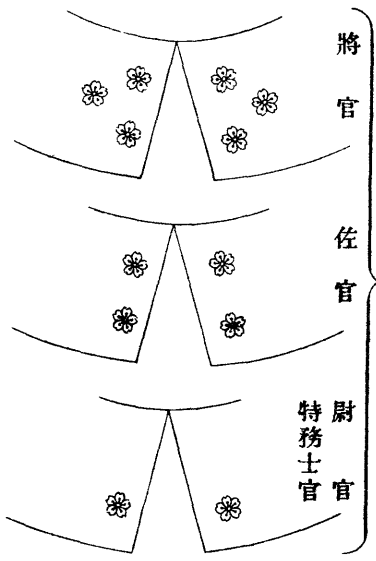
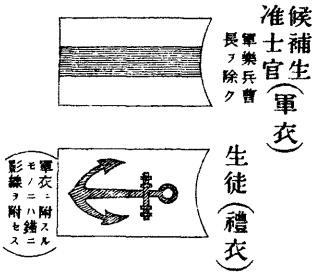
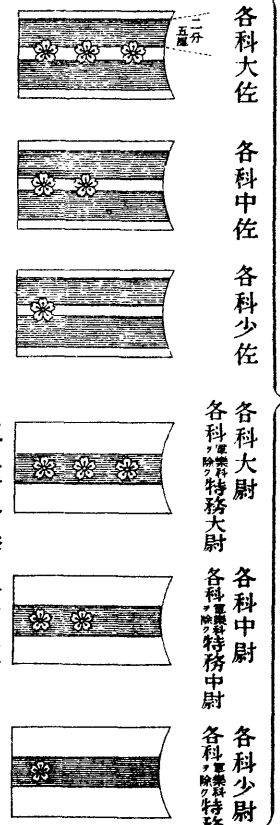
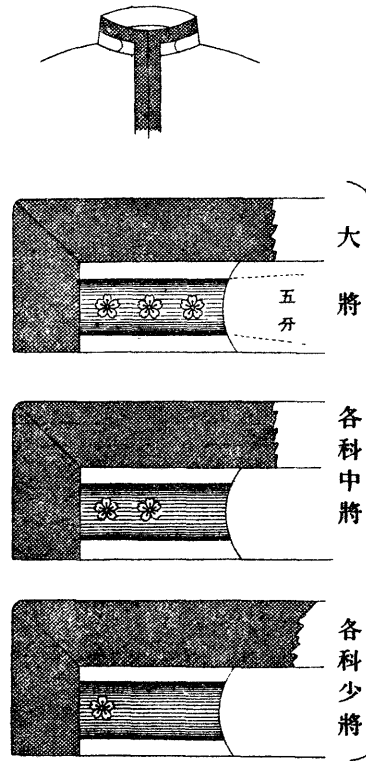
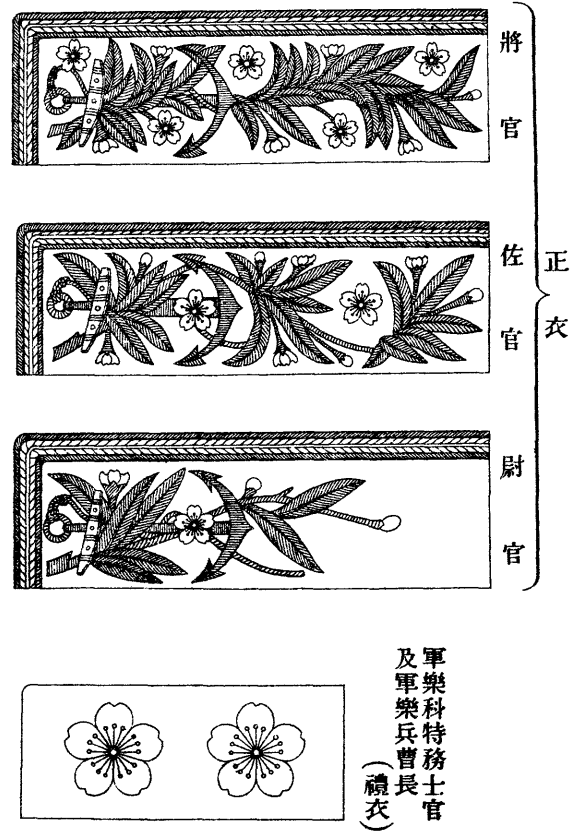
員		備			豫	
工 作 科	機 關 科	整 備 科	航 空 科	兵 科		
海軍豫備一等工作兵	海軍豫備一等機關兵	海軍豫備一等整備兵	海軍豫備一等航空兵	海軍豫備一等水兵	豫備一等兵	豫 備 兵
海軍豫備二等工作兵	海軍豫備二等機關兵	海軍豫備二等整備兵	海軍豫備二等航空兵	海軍豫備二等水兵	豫備二等兵	
海軍豫備三等工作兵	海軍豫備三等機關兵	海軍豫備三等整備兵	海軍豫備三等航空兵	海軍豫備三等水兵	豫備三等兵	

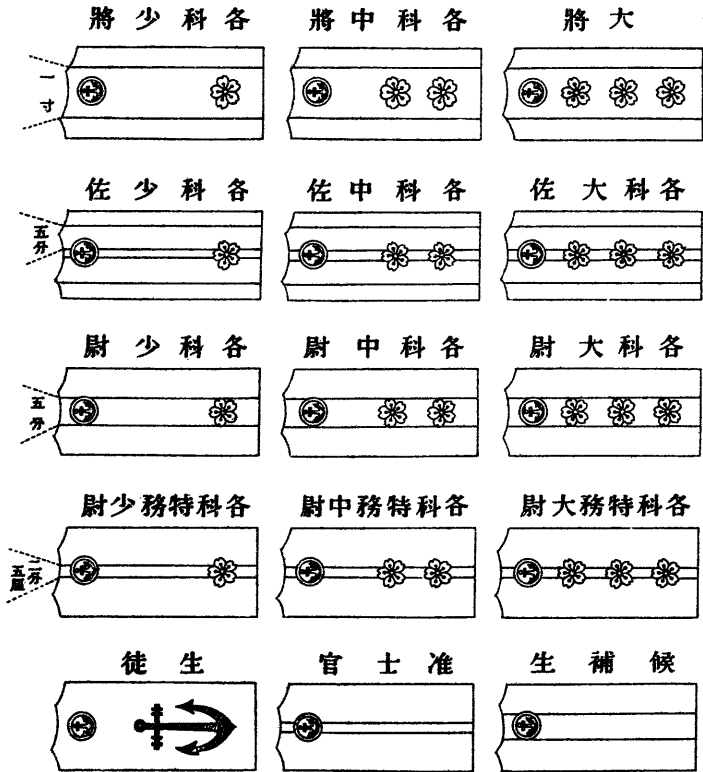
圖 一 第

(章 袖)



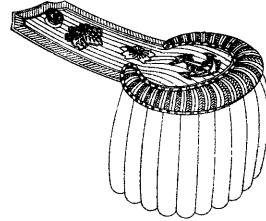
(章 襟)



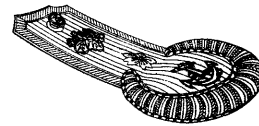


夏衣及外套

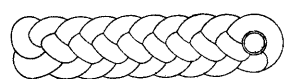
尉 大 科 各
尉 大 務 特 科 各



尉 少 中 科 各
尉 少 中 務 特 科 各

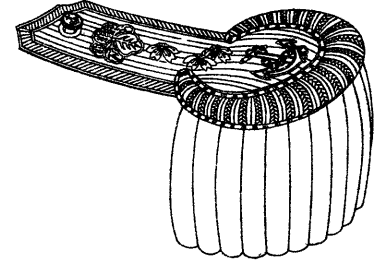


官 士 務 特 科 樂 軍
長 曹 兵 樂 軍

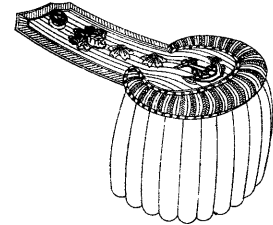


禮衣

官 將

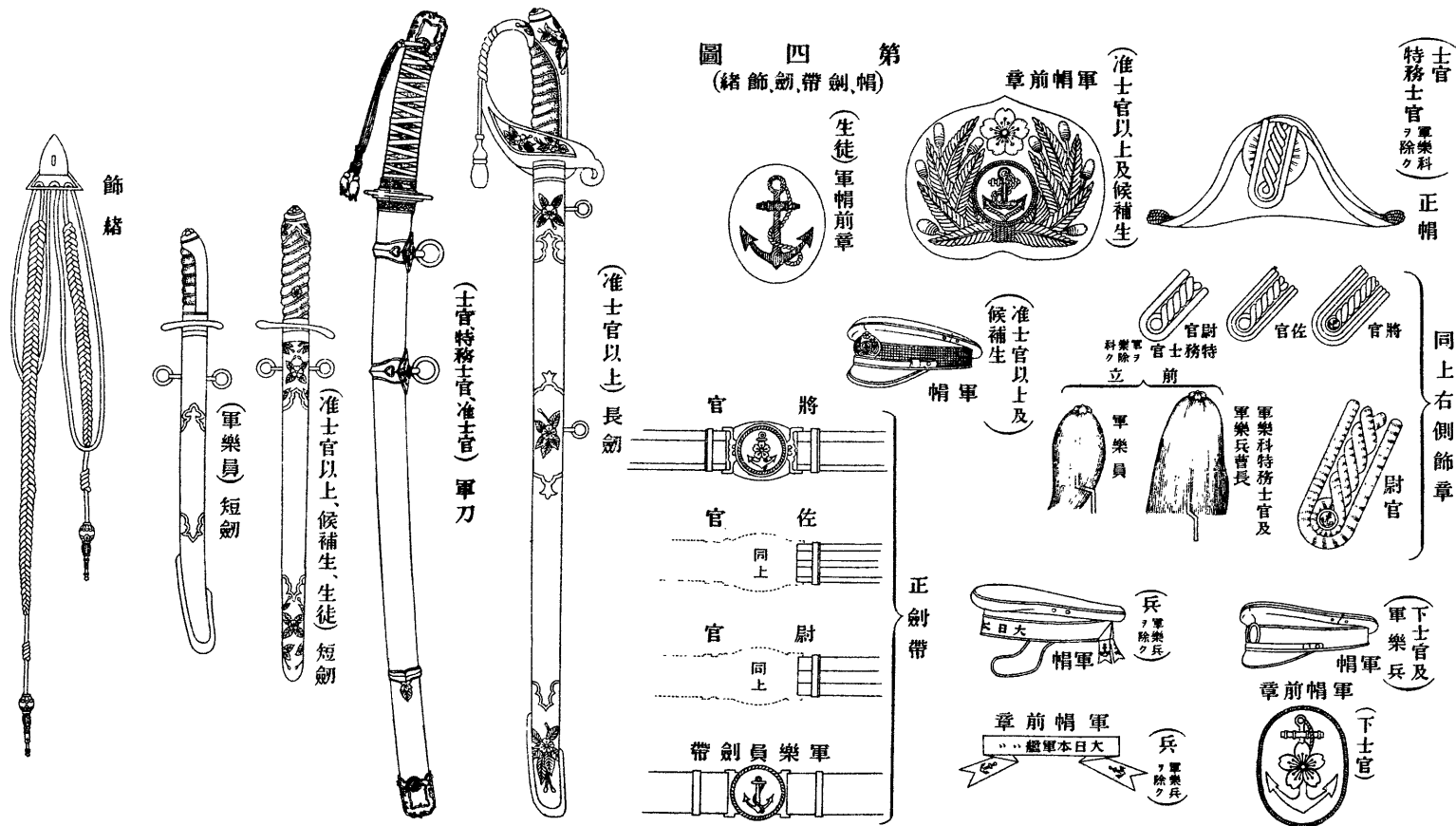


官 佐



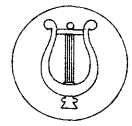






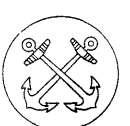
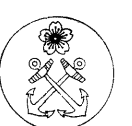



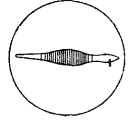





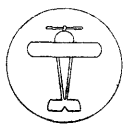





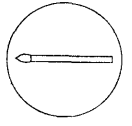





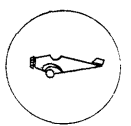
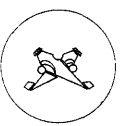




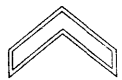

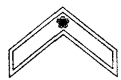
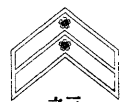
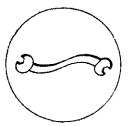

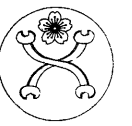



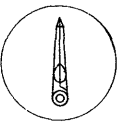
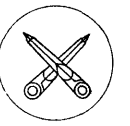




正肩章

圖 四 第
(緒飾, 劔, 帶劔, 帽)



HP「海軍砲術学校」公開史料

(章行善及章別區職官)

						科樂軍							科兵
兵樂軍等三	兵樂軍等二	兵樂軍等一	曹兵樂軍等三	曹兵樂軍等二	曹兵樂軍等一		兵水等三	兵水等二	兵水等一	曹兵等三	曹兵等二	曹兵等一	
						科護看							科空航
兵護看等三	兵護看等二	兵護看等一	曹兵護看等三	曹兵護看等二	曹兵護看等一		兵空航等三	兵空航等二	兵空航等一	曹兵空航等三	曹兵空航等二	曹兵空航等一	
						科計主							科備整
兵計主等三	兵計主等二	兵計主等一	曹兵計主等三	曹兵計主等二	曹兵計主等一		兵備整等三	兵備整等二	兵備整等一	曹兵備整等三	曹兵備整等二	曹兵備整等一	
章行善普通			章行善別特										
				章行善							科開機		
	之 三 線 以 上		之 三 線 以 上		兵開機等三	兵開機等二	兵開機等一	曹兵開機等三	曹兵開機等二	曹兵開機等一			
											科作工		
					兵作工等三	兵作工等二	兵作工等一	曹兵作工等三	曹兵作工等二	曹兵作工等一			

砲 術 章

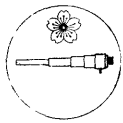
特修科砲術練習生章



高等科砲術練習生章



普通科砲術練習生章

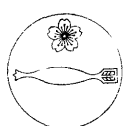


水 雷 術 章

高等科水雷術練習生章

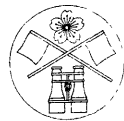


普通科水雷術練習生章

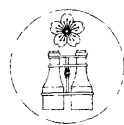


信 號 術 章

高等科信號術練習生章

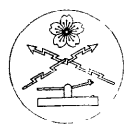


普通科信號術練習生章

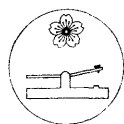


電 信 術 章

高等科電信術練習生章

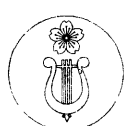


普通科電信術練習生章



軍 樂 術 章

特修科軍樂術練習生章



航 空 術 章

特修科航空術練習生章



操縦練習生章又ハ偵察練習生章



飛行練習生章

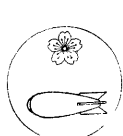


航 空 兵 器 術 章

高等科航空兵器術練習生章



普通科航空兵器術練習生章

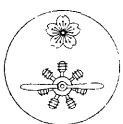


整 備 術 章

高等科整備術練習生章



普通科整備術練習生章

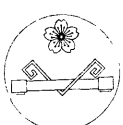


測 的 術 章

高等科測的術練習生章



普通科測的術練習生章

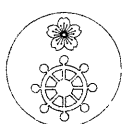


運 用 術 章

高等科運用術練習生章又ハ砲術運用術練習生章

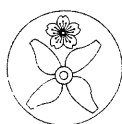


普通科運用術練習生章

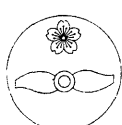


機 關 術 章

高等科機關術練習生章



普通科機關術練習生章



電 機 術 章

高等科電機術練習生章



普通科電機術練習生章

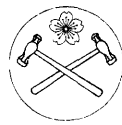


工 作 術 章

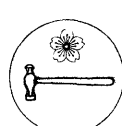
特修科工作術練習生章



高等科工作術練習生章

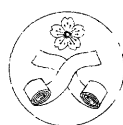


普通科工作術練習生章

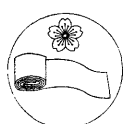


看 護 術 章

高等科看護術練習生章



普通科看護術練習生章

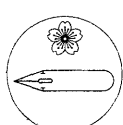


經 理 術 章

高等科經理術練習生章

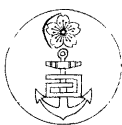


普通科經理術練習生章

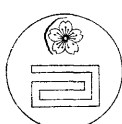


衣 糧 術 章

高等科衣糧術練習生章



普通科衣糧術練習生章



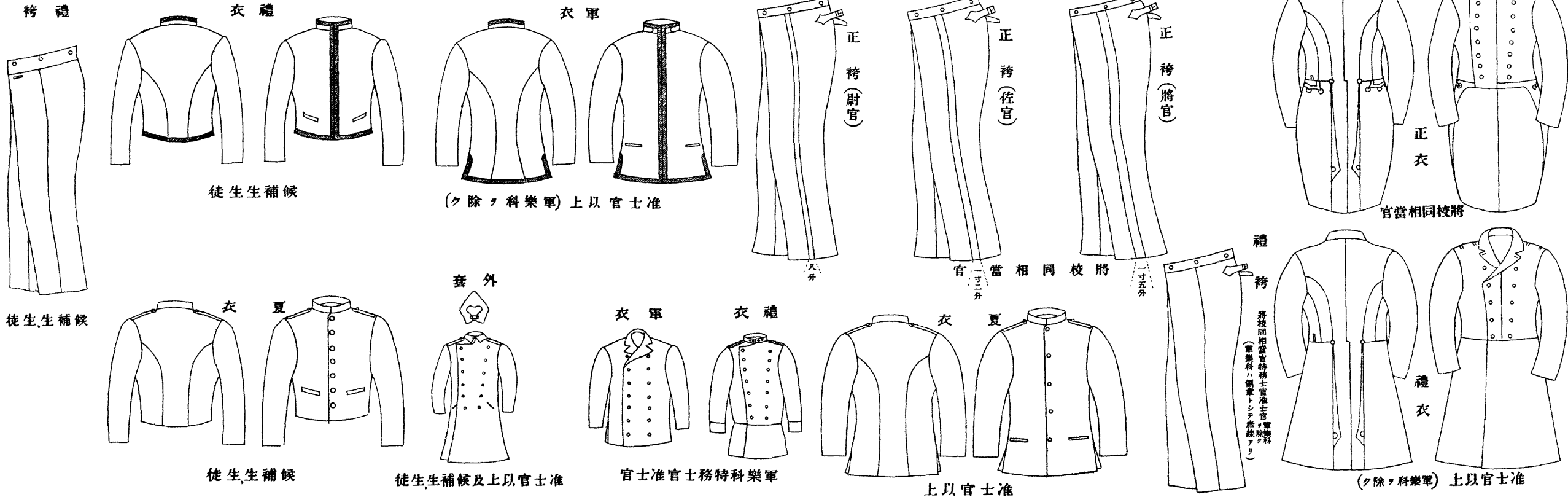


圖 八 第

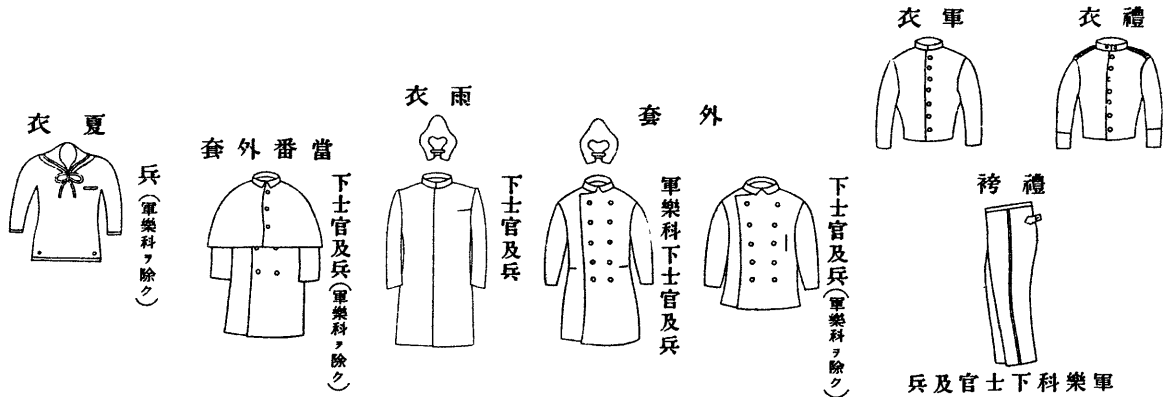
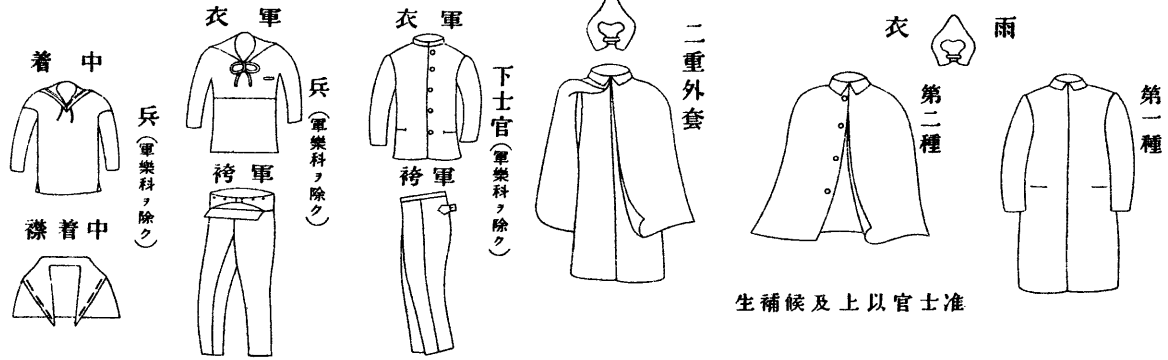
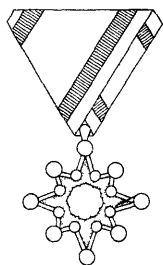


圖 九 第

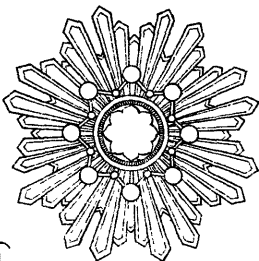


勳八等瑞寶章 (勳七等モ同形)

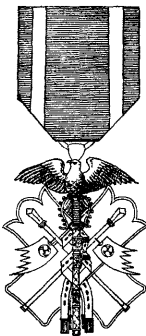


勳四等瑞寶章

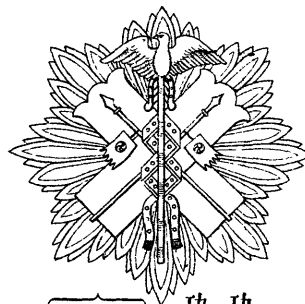
勳三等
勳五等
勳六等
モ形状
同シ



勳一等瑞寶副章
勳二等瑞寶章



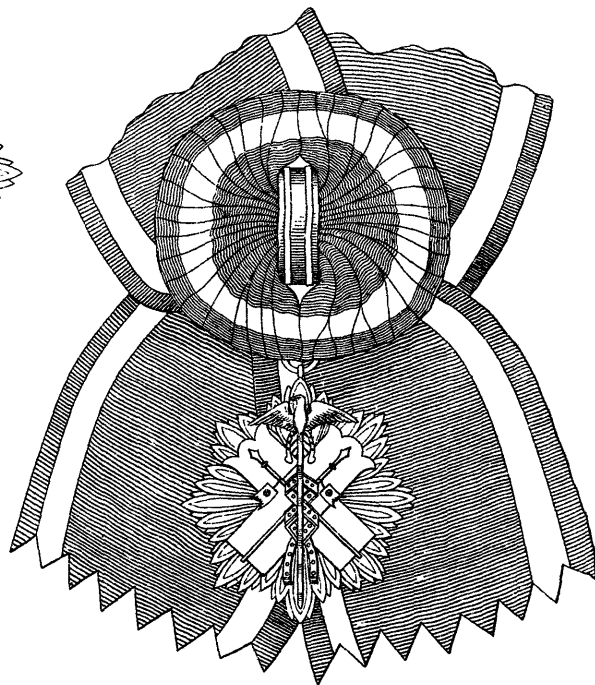
功七級金鵞勳章 (功六級モ同形)



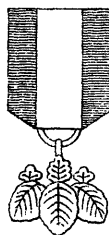
功一級金鵞勳章副章
功二級金鵞勳章

功三級
功四級
功五級

金鵞勳章モ形状相似タリ



章勳鵞金級一功

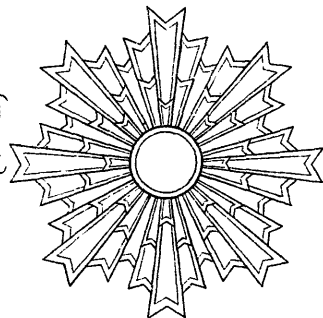


勳八等白色桐葉章 (勳七等モ同形)



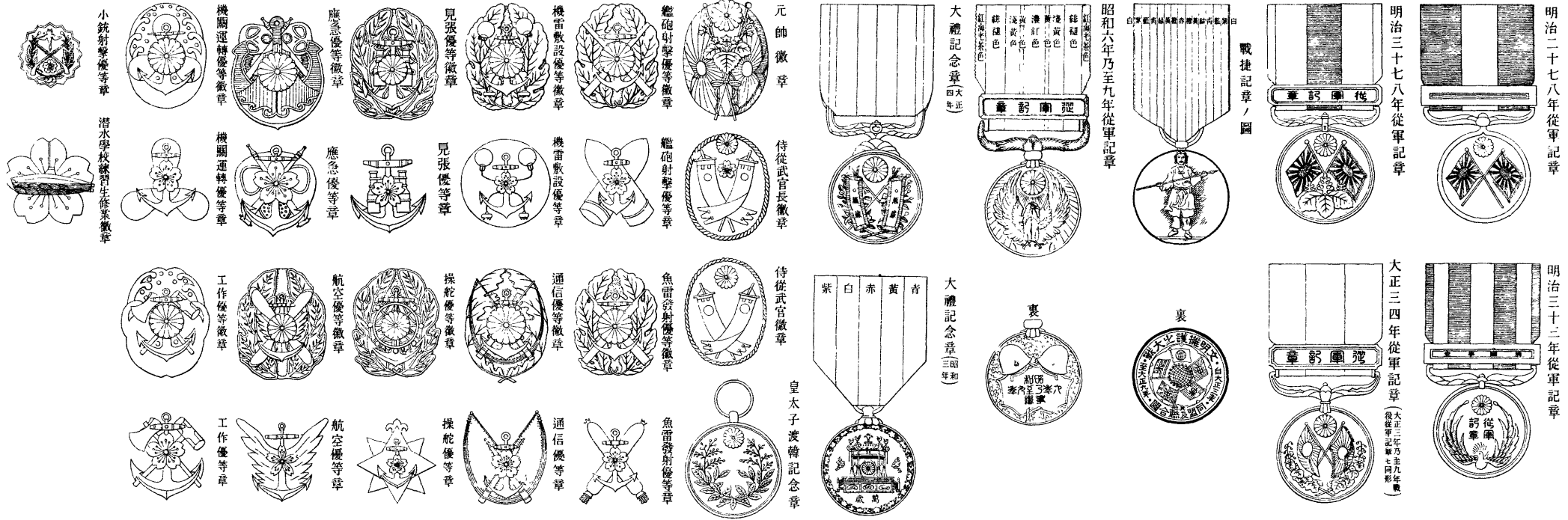
勳三等
勳五等
勳六等
モ形状相似タリ

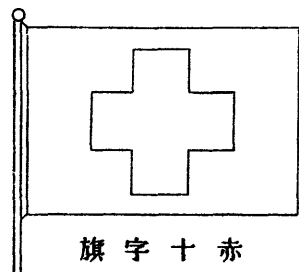
勳四等旭日小綬章



勳一等旭日副章
勳二等旭日重光章

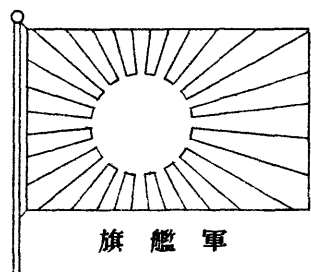
圖 十 第





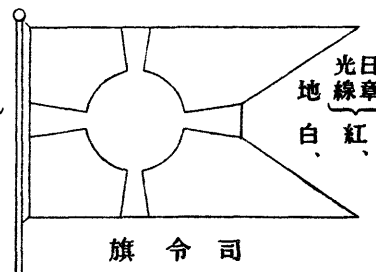
十字赤、地白、

旗字十赤



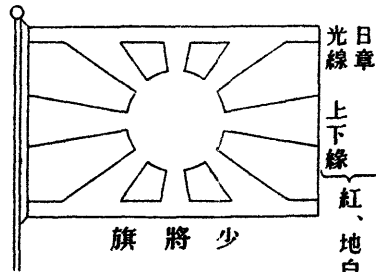
日章
光線 紅、地白、

旗艦軍



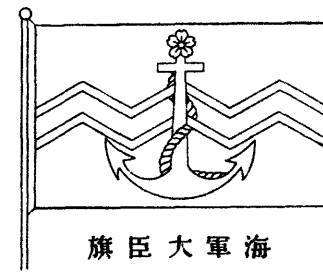
日章
光線 紅、地白、

旗令司



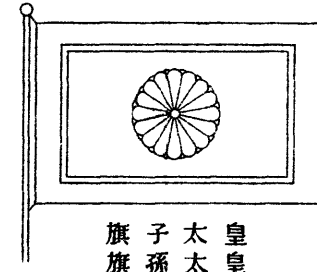
日章
光線 上下線 紅、地白、

旗將少



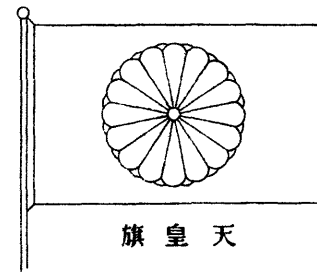
櫻錨紅、錨索黃、
山形紅、地白、

旗臣大軍海



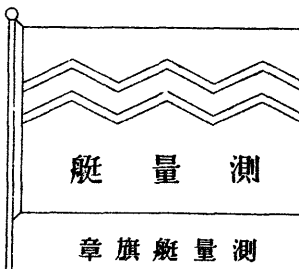
菊金地紅、輪廓白、緣紅、

旗子太皇
旗孫太皇



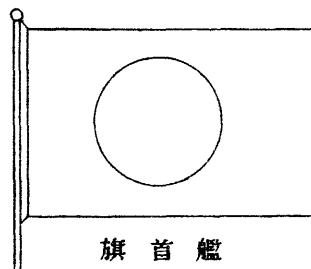
菊金、地紅、

旗皇天



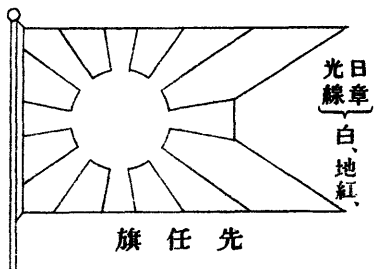
地白、山紺、字黑、

章旗艦量測



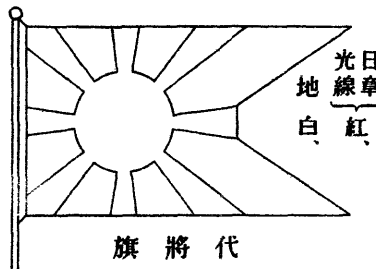
日章紅、地白、

旗首艦



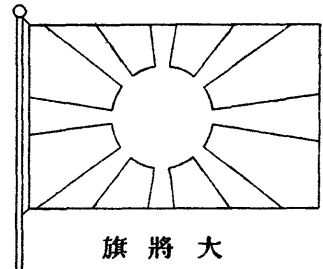
日章
光線 白、地紅、

旗任先



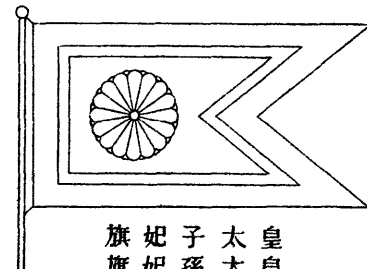
日章
光線 紅、地白、

旗將代



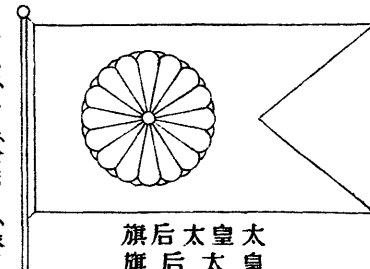
日章
光線 紅、地白、

旗將大



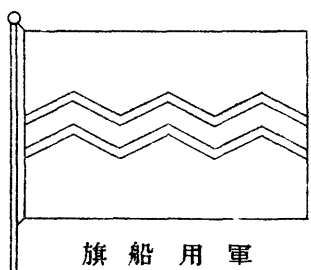
菊金、地紅、輪廓白、緣紅、

旗妃子太皇
旗妃孫太皇



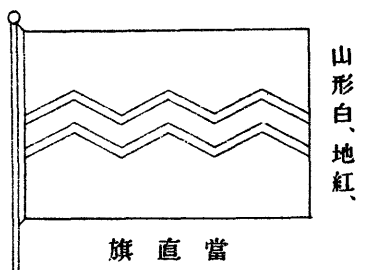
菊金、地紅、

旗后太皇太
旗后太皇
旗后皇



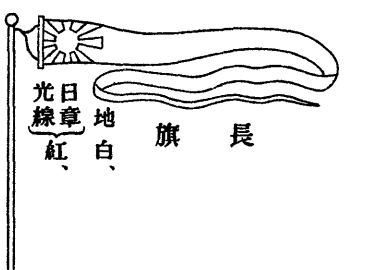
山形紺、地白、

旗船用軍



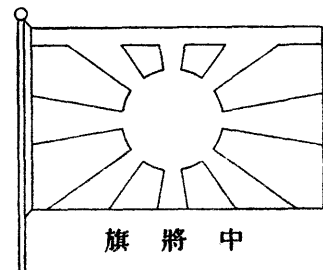
山形白、地紅、

旗直當



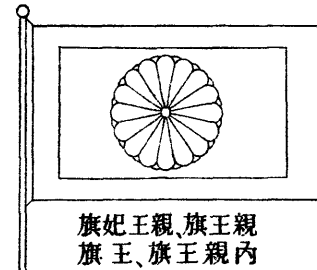
日章
光線 紅、地白、

旗長



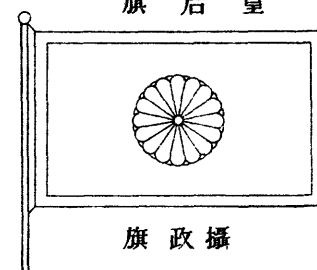
日章
光線 上線 紅、地白、

旗將中



菊金、地白、緣紅、

旗妃王親、旗王親
旗王、旗王親內
旗王女、旗妃王



菊金、地紅、緣白、

旗政攝

HP「海軍砲術学校」公開史料

コフケヤクノウムラナネツソレタヨカワヲルヌリチトヘホハロイ
 雨衣蒲手半靴脚外袴軍劍短手帽前軍カ腹麻同夏夏襦袴同禮同軍外
 團 套 帽 日 フ 襦
 衣囊覆箱靴下絆紐約章帶劍袋覆立帽ス巻襟衣袴絆下衣袴衣袴套
 -----二八二 二二--二三--二二一四三三三三二二--三三一

軍樂兵

ヤノウ ム ラ ナネツ ソレタヨ カワヲ
 衣蒲手 紺 半 靴脚外 帽軍軍襟 雨腹中
 團 足 套 日 前 前 着
 囊覆箱 袋 靴 下絆紐 覆章帽飾 衣巻襟
 --- 二 八 一 三 二 二 一 一 四

ル 又 リ チトヘホニハロイ
 掃除 同上 事業 夏襦袴 夏夏軍軍外
 服 衣 服 袴 袴 下衣袴衣袴套
 一 三 三 三 三 三 三 三 一

兵 (軍樂兵ヲ除ク)

機 械 工 外 外 機
 關 補 給 補 給 補 給
 兵 兵 兵 兵 兵
 生 生 生 生 生

信 水 水 信 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵
 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵
 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵
 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵

掌 主 經 理 計 理 兵 兵
 計 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵
 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵

